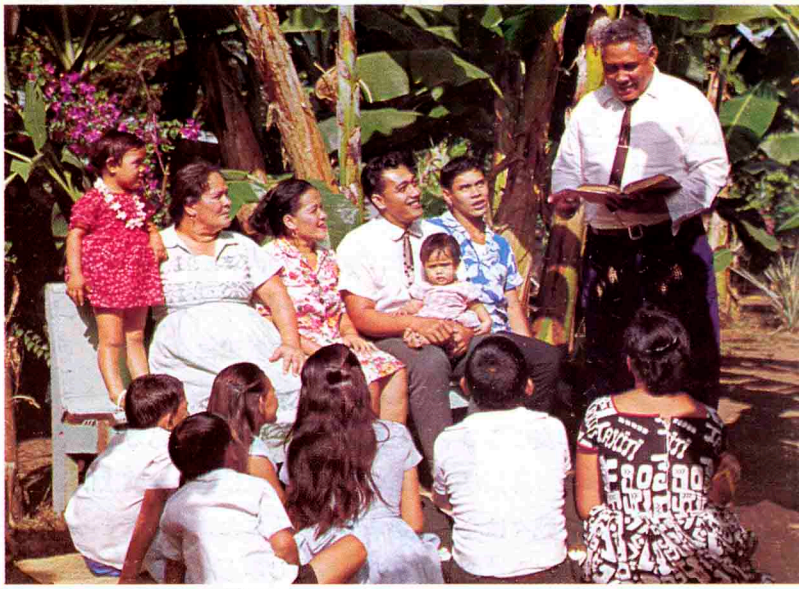
聖徒の道 1971年8月20日発行（毎月1回20日発行）第15巻 第8号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1971 8



心　の　糧

十二使徒評議員会補助
エルレイ・L・クリスチャンセン

兄弟姉妹たち，私は試練や困難，失意やかん難を負うている人々にこう申しあげたい，「疑うなかれ，おそるるなかれ」と。（教義と聖約６：36）

イエス・キリストの福音は，人生のあらゆる状況に遭遇した場合に必要な，またひとりびとりを究極の成功へと向かわせるすべての原則，律法，儀式を含んでいる。

イエスの教えは人間の心を燃やし，教義は心を開かせてくれる。そしてそれらは我々に正しい道を示してくれるのである。

イエスの教えの中で最も大切なものは，神が我々の天父であるということである。イエスは天父に祈り，すべての人々が同じように祈るように，そして「神の口から出る一つ一つの言で」（マタイ４：４）生きるようにと求められた。イエスは御自身を通してもたらされた天父の計画に従うなら，我々ひとりびとりが神となる道を全うできると教えられた。

これが真の心の平和を見出す唯一の計画である。これこそ実に人を救いと昇栄に導く唯一の計画なのである。この計画は我々が前世に霊として存在していたときに示され，我々はそれを喜んで受け入れた。そしてその計画の一部にあって，我々はこの死すべき世の中で喜び同様悲しみも，安らぎ同様苦痛も，成功同様失意も，そして健康同様病いもあるものと理解したのであった。主は，我々の進歩に必要であると考えて，甘さの中にも苦さを混じえておられるのである。主は，我々個人の信仰が順境と同様逆境においても試されなければならないことをご存じである。

もしそうでなければ，信仰だけで対抗し得る状態が生じたときに，信仰が十分に高められないということになるであろう。

兄弟姉妹たち，あなたも私も決してひとりではない。主は我々を見捨てたまわない。我々が主を見捨てぬ限り……。

―― も　く　じ ――

全人類の救い……大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス… 213
神殿―天国への門……マリオン・G・ロムニー… 215
家族と永遠……ボイド・K・パッカー… 221
系図入門……ハワード・W・ハンター長老… 225
トミーくんへ……マーク・E・ピーターセン… 227
老犬ラグスのたすけ…… 228
これらのことを学びました……第二副管長　N・エルドン・タナー… 231
ベトナムの日曜日……ロジャー・マクローリン… 232
スポークンワード…集団の中に・一度に多くの日々を
……リチャード・L・エバンズ… 235
若人を備える……第一副管長　ハロルド・B・リー… 236
天からの贈り物……ジョージ・デュラント… 239

今月のこよみ

17日　1935年　「誡命の書」教義と聖約となる。

25日　1878年　初等協会組織さる。初代会長オータリア・ロジャーズ

29日　1877年　ブリガム・ヤング　77歳で逝去。

今月の表紙

この世界各国の幸福そうな家族だんらんの光景は，ドイル・グリーン，ジェリー・ハーベイ，エルドン・リンショテン，ロランド・スパークスによって描かれたものである。ジョージ・デュラントの「天からの贈り物」（P.238）を参照。

このジョセフ・フィールディング・スミス大管長によるメッセージは，1910年2月号のインプルーブメント・エラ誌（P.352）に初めて掲載された。テーマ，内容とも時宜を得たものであり，この場をかりて再び述べる価値が十分にある。

＜予言者のことば＞

全人類の救い

大管長
ジョセフ・
フィールディング・スミス

末日聖徒は，世の救いに関してその身にゆだねられたすばらしい責任を十分に認識しているだろうか。我々はかたくなでよこしまな世代を改悛し救うべく多くのことを行なっている。我々は数多くの宣教師を世界各地に送り，この大切な業のために毎年数十万ドルを費やしている。さらに集会場，学校などの建設のために，またイスラエルの若者の教育のために，我々の国々の進歩と発展のために，都市の建設，共同体の拡張，定期刊行物の発行，そして我々自身を改善し，世を福音に改宗させる知識を広めるすべての方法に，我々はばく大な費用を投じているのである。しかし，死者の救いのために我々は何をしているだろうか。

この偉大なみ業を理解し，主の神殿において忠実にその義務を果たしている人が数多くいることは事実である。これはすすんでこの業をなそうとする活発な聖徒の心意気を表わしている。しかしそれは死者のために何もしていない不活発で怠慢な会員を安心させるものではない。他人の行ないによって自らの面目を施すことはできない。責任は個々の能力と機会とに従って，同じ効力をもってあらゆる人々の上にゆだねられている。

我々がいかなる職に召されてきたか，現在どんな職に召されているか，あるいは教会の他の分野でいかに忠実に働いてきたかは問題ではない。だれもこの偉大な義務から免除されることはないのである。これは長老にも使徒にも要求される。

伝道部のシオン，シオンのステーキ部，その他いかなるところにおけるシオンのための地位，業績，長期間の奉仕もその人を先祖の救いに関係のない者とすることはないだろう。

ある人々は，什分の一を納め，定期的に集会に出席してその義務を果たし，貧者に自分の物を施し，あるいはたまたま1年，2年，またはそれ以上この世で伝道をすれば，それ以上の責任からは放免されると考えている。しかしながら，すべての人々にとって最も偉大でかつ重要な義務は死者のために働くことである。我々は上にあげたすべてのことに対して努力を傾けることができるし，またそうすべきである。そしてそのために報いを得るだろう。しかしもし我々がこのより重要な特権である戒めを無視するならば，他のいかなる良い働きにもかかわらず罪ありとされるだろう。

では，なぜそれが罪なのか。それは，「神が与えたもうたこの世における最も大きな責任は，死者を探し出すこと」であるから，またそれなしに我々は救われず，「我々の前に世を去った人々も我々の後に来る人々も共通に救いを受ける必要があり，神はそれを人間に義務として課したもうた」と予言者ジョセフ・スミスが語っているからである。（「タイムズ・アンド・シーズンズ」5：616）

そこで我々は，このことから，世界各地において福音を述べ伝えること，また教会において他のあらゆる働きをなすことが必要であるにもかかわらず，果たすべき義務として我々に与えられた最も大きな戒めは，我々自身のために，そして我々の死んだ先祖のために神殿の儀式をすることであるということがわかるのである。

予言者は続けてこう言っている。「死者のためのバプテスマは人がシオン山の救い手として立つことのできる唯一の道である。福音の第一原則の宣言は人の個人的な救いの手段であった。しかし救いの儀式に身代わりとして盛んに携わることにより，人はその数えきれないほど多くの親族を神の王国に迎え入れる助け手となるのである。……この教義は，人類の救いの計画の範囲において神の愛と慈悲の偉大さを示すという点で栄光あるものとなるのであ

る。この栄光の真理は理解を深め，問題や困難，苦悩のもとにある人間を励ますために良く計画されている。……この教義は，死者が代理のバプテスマを受け，その名が天において記録され，彼らが肉体を受けている間になした行ないによって裁かれるようその救いの儀式の備えをなすときに，神の知恵とあわれみを明白に示してくれるのである。この教義は聖典の中にあって人々の重荷となるものであった。すでに死んだ親族のために行なうこの責任を怠る聖徒は，自分の救いを危うくしているのである。」（「タイムズ・アンド・シーズンズ」2：577—78）

我々の救いが危険にさらされている中にあってなおかつその効力を失わずにいるのは，親と子がバプテスマの儀式を受けるのみならず，幾世代にもわたって共に結び固められる必要があるからである。神殿に行き，死者のためにバプテスマを受け，確認されあらゆる儀式を受けることは，我々自身のために受けると同様必要なことなのである。（教会歴史6：365参照）

啓示は次のように告げている。「……この事を知れば，それにて足る。すなわち先祖と子らとの間に或種の事項につき或種の固き繋りなき時は，この世は咀いをもて撃たるることこれなり。見よ，そもそもその事項とは何なるか。それはすなわち死者に代るバプテスマなり。死者なくばわれら完うせらるるを得ず。またわれらなくば死者もまた全うせらるるを得ず。われらも彼らもまた福音を受け入れて死にし者なくては完うせらるるを得ざるなり。そは全くして欠くることなき完全なる合一と，また神権の時代と，鍵と，権能と，光栄との固き結合出来て，これがアダムの時代より現在に至るまでことごとく明らかにさるること，今やまさに先触れを始めんとする時満ちたる神権の時代の先駆をなすに必要なればなり。なおそれのみならずまた世の始めよりいまだ嘗て啓示せられずして，賢く慎みある人々にも明かされざりしことも，この時満ちたる神権の時代には小児にも乳のみ児にも明らかにせらるべし。」（教義と聖約128：18）

再び予言者の言葉を引用しよう。「聖書はこのように語っている：『主の大いなる恐るべき日が来る前に，わたしは予言者エライジャをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来てのろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。』（欽定訳マラキ4：5，6）

この「向ける」（turn）という語は「つなぐ」（bind）または「結び固める」（seal）と直すべきである。が，この重要な任務の目的は何なのか，またいかにして成就されるのだろうか。その鍵が渡されエライジャが来て福音が確立され，神の聖徒たちは集められてシオンを建設し，シオン山の救い手として立つのである。

だが彼らはいかにしてシオン山の救い手となるのだろうか。それは死んだ先祖のために神殿を建ててバプテスマフォントを設け，バプテスマ，確認，洗い，灌油，聖任などのあらゆる儀式を行ないかつ受け，彼らの頭に力を結び固め，そして彼らが第一の復活に出で来て栄光の冠を受けるよう救うことによってである。そしてそこには，親を子に，子を親につなぐ鎖があり，それはこのエライジャの予言を成就するものである。私が神に望んだように今やこの神殿は建てられ，我々はその中に入り，神殿の儀式を執り行ない，その時を利してこの地上にいる間に結び固めをすることができるのである。

地球が滅され，この世の終りが宣告されるまでに死者を救い，生きている親族を集め，なおかつ自らも救われるために聖徒たちに与えられている時間はそう多くはないのである。」（教会歴史6：183—84）

これらの言葉は死者のための儀式の重要性を強調している。なぜなら我々は彼らなしには救われないし，彼らもまた我々なしには救われないからである。我々の救いは父と子が完全な家族のもとに共に結合し，つながれ，結び固められなければ完成され得ないのである。すなわち，我々すべての父としての召しにあるアダムと共に，時の初めから終わりまでの忠実なるすべての人々によるひとつの大家族が構成されるまで，夫は権能によってその妻と結ばれ，子供たちはその両親と結ばれなければならないのである。

神　殿　天国への門

十二使徒評議員
マリオン・G・ロムニー

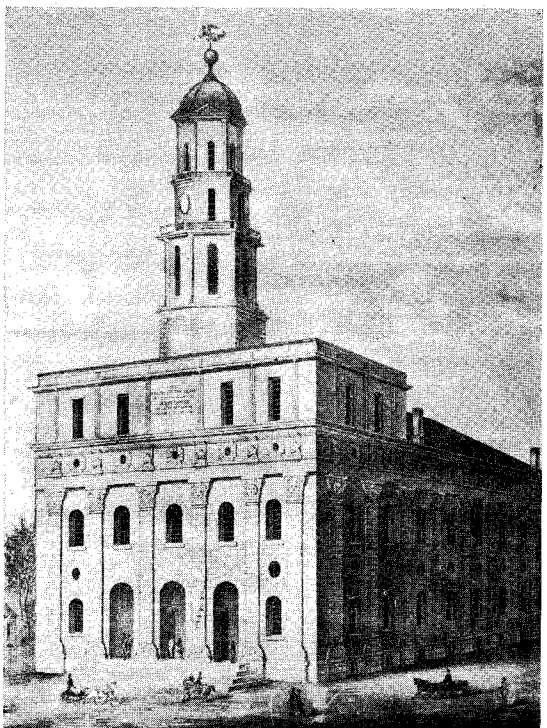
福音の回復によって明らかにされたあらゆる奇しき事柄のうちで，最も重要なことの1つは神殿とその目的が知らされたことである。

予言者ジョセフ・スミスが古代の記録を翻訳した時に，彼はモルモン経の中の人々の神殿について知る機会を得た。紀元前570年頃にニーファイは自分がしていたことをこう語っている。「私ニーファイはまたソロモンの神殿にならって一つの神殿を建てたが，そのちがっている所はさほど多く貴重な品を使って建てなかっただけである。それはかように貴重な品が当時この地になかったから，それでソロモンの神殿とちがわない様に建てることができなかったのである。しかし，その建築の様式はソロモンの神殿と同じであって，その製作の技倆は非常に見事であった。」（Ⅱニーファイ5：16）その後ヤコブはニーファイの民に教えを述べている[1]。紀元前121年頃に，「リムハイ王は全国の民に布告を廻し，この布告を見たら神殿に集まって王の告げる言葉を聞けと命じた。」（モーサヤ7：17）悪王ノアが優雅に飾った神殿とはこのことを指差したのであろう[2]。

前述の事柄はすべてニーファイによって建てられた神殿についてである。紀元前124年頃に人々はベンジャミン王の最後の偉大な説教を聞くためにゼラヘムラの地の別の神殿に集まった[3]。モルモン経はバウンテフルの地に第3番目の神殿があったことを教えている。ニーファイの民はその回りに集まって，初めて復活された救い主を見，そのみ声を聞いたのである[4]。ニーファイ人の間にはまた他の神殿もあったのであろう[5]。

旧約聖書によるとイスラエルの民は神殿の建築家であった。ジェームス・E・タルメージ博士は「イスラエルの民は生ける神の名において神殿を建てる建設者として他の民と区別されていた」と指摘している。偶像崇拝者たちもまた彼らの神である偶像を崇拝するために神殿を建てた。イスラエル人が「偶像を崇拝するエジプト人の地から脱出するや否や」エホバは彼らに，「イスラエル人の主ならびに王として実際に現われたまいその御心を伝えたまえる聖所の準備をするよう命じられた。」[7] エホバから指示された詳細に従って，彼らはすばらしい材料で契約の箱を安置する幕屋を建てた。イスラエル人は荒野で40年もの間さまよい歩いた末，ついに彼ら自身の町が与えられ，彼らの運んできた幕屋は「シロに休息の場を与えられた。」そして「民は神の意志と言葉を聞くためにシロにやってきた[8]。」「イスラエルの第2代目の王ダビデは，自分が杉でできた宮殿に住んでいるのに，神の神殿はテントにすぎないということは適切でないとして主の宮居を建設するよう計画した[9]。」

ノーヴー神殿はこの回復された神権時代に2番目に建てられたものである。



しかし主は彼に言われた「おまえはわが名のために家を建ててはならない。おまえは軍人であって，多くの血を流したからである」と。(歴代志上28：3)

だがダビデはその材料を集め，彼の息子ソロモンが神殿を建てた。この荘厳な神殿は，34年もの間その豪華さを保ち続けた。そののちソロモンの罪悪とイスラエルの背教のために「エホバはもはや……守護を取り上げられた[10]」のであった。神殿はエジプト人の手に移り，ユダの王アハズに奪われ，紀元前600年頃についにネブカデネザルによって焼かれてしまった。

イスラエルはすでに邪悪な民になり，各支族は分散していた。「十二支族中十支族から成るイスラエル王国は，紀元前721年頃アッシリヤに支配され」ていた。残りの二支族はユダ王国を構成し，70年間バビロンに捕囚された。

「それから友好的なサイラスとダリウスの支配下の時にエルサレムに帰り，自分たちの信仰によって再び神殿を建設することを許された……。復興した神殿はゼルバベルの神殿として歴史上知られている」それは紀元前515年に完成した。「この神殿は偉大なソロモンの神殿と比較して，仕上げならびに装飾において大分劣ってはいたが，当時の人々が建てることのできる最上のものであり，主は幕屋やソロモンの神殿の場合と同様，それを容認された[11]。」それから5世紀たって神殿が荒廃した時に，ユダヤの王ヘロデによって神殿は再建された。それはちようどキリスト誕生の約16年前のことであった。この神殿はたびたび商用に使われたりしたが，救い主がこの世におられた時に起きた数多くの出来事はこの神殿に関係していた。紀元70年に，その神殿は主に予言されていたように焼き滅ぼされてしまった。

神殿は常に生ける神に真に従う者たちにとって欠くことができないという事実にもかかわらず，記録によるとニーファイ人の他にどのキリスト教徒もヘロデの神殿が破壊されてから1830年末日聖徒イエス・キリスト教会が設立されるまでの1760年間，神殿を建てていないのである。その間ずっと，地上の人々は神殿やその目的，また中で行なわれる儀式などを知らなかったということから，次のような質問が起こってくる。

予言者ジョセフ・スミスはどこから神殿に関する知識を得たのか。だれも神殿について知らなかったのであるから，明らかにジョセフ・スミスは人からその知識を受けたのではなく，直接天からの啓示によって知らされたのである。それゆえ今日の神殿建築は真のイエス・キリスト教会のしるしである。

イエス・キリストの福音を理解している教会員以外のいかなる人も，神殿を胸に描くことはできない。前世の教義，永遠の結婚，復活，昇栄，神の属性と我々との関係，これらの偉大な永遠の原則やその他の福音の原則は神殿の仕事の中心であり，末日聖徒はそれらの原則を心の中に深く理解するのである。

ジョセフ・スミスが予言者として召されたことに関する最も決定的な証は，教会が組織されてから1年以内に彼が主から神殿建築に関する指示を受け始めたことである。(教義と聖約36：8）1831年7月，主はジョセフにミズーリ州インデペンデンスが「シオンの地を建つべき所にして……神殿の建てらるる一地点はその西方に当り裁判所より遠からざる地所にあり」と言われた。(教義と聖約57：2，3）初期の時代に，シオンの市や神殿の建築に関する聖徒の関心は非常に大きかった。そして神殿への関心が高まると同時に集合のみたまが聖徒の上にくだったのであった。集合のみたまと神殿への関心との関係は予言者ジョセフ・スミスによって次のように説明されている。彼は救い主の言葉を引用して，「ああ，エルサレム，エルサレム，予言者たちを殺し，おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど，めんどりが翼の下にそのひなを集めるように，わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに，おまえたちは応じようとしなかった」(マタイ23：37）と語り，それからこう尋ねた。「いつの時代の場合にも，主がユダヤ人や，神の民を集める目的は何だったのか。」

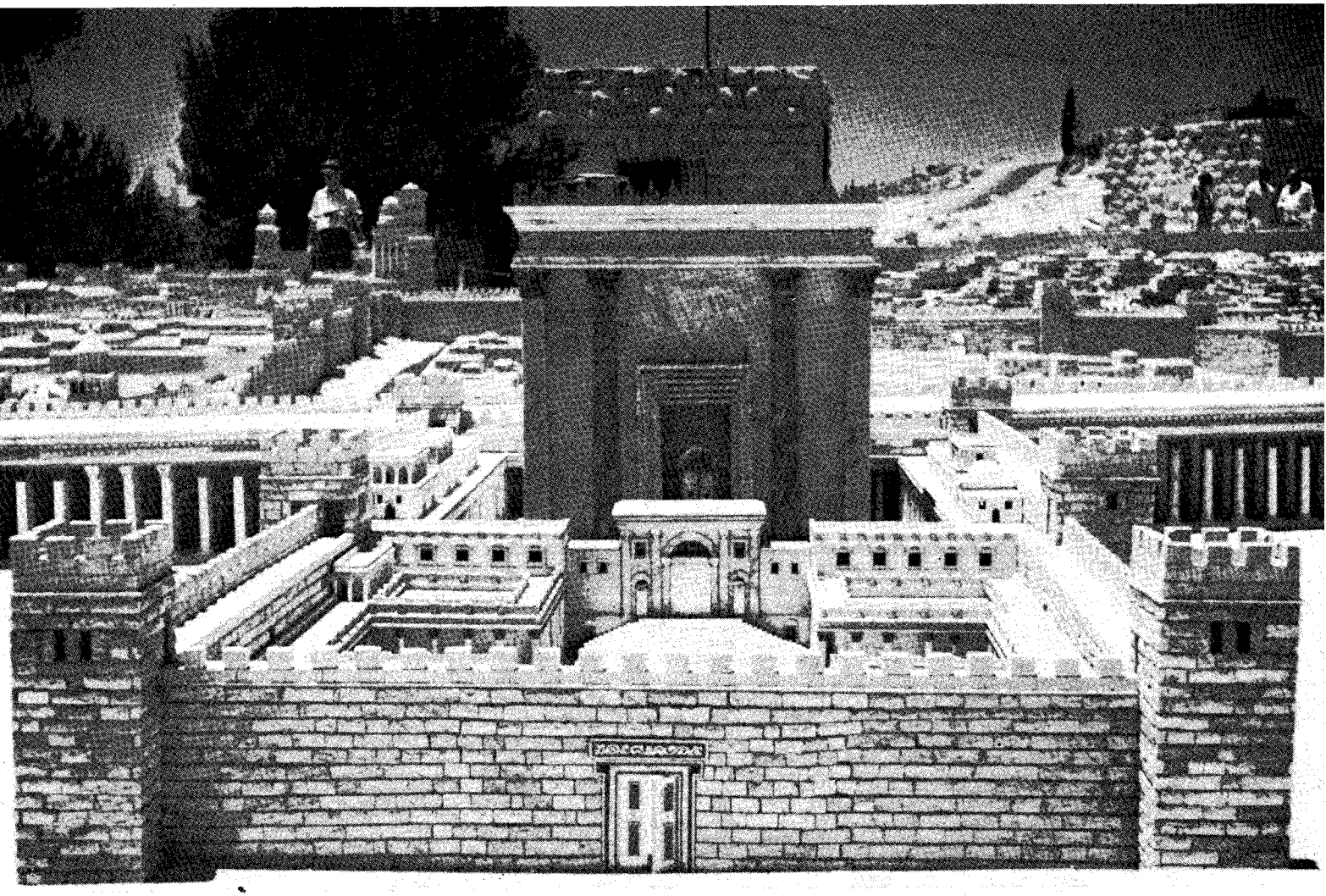
彼はこう説明している。「そのおもな目的は，主ご自身が主の民に主の家の儀式と主の王国の栄光を啓

示し，救いの道を教えることができる家を建てさせることであった。なぜなら，ある種の儀式や原則はそれらが教えられ実行される時には，その目的のために建てられた場所か家で執り行なわれなければならないからである。神権の原則と律法は，世のあらゆる時代に人々を集めるという原則に基づくべきであるということは，前世の天上の大会議で計画されたことであった。創世の以前から人類の救いのために神権によって天で定められた諸儀式は決して変えられないのである。すべての人々は同じ原則で救われなければならない。

この同じ目的のために，神は末日において主の民を集め，彼らが儀式やエンダウメント，洗いや灌油などを受けられるように主の家を建てさせるのである。もし人が完全な神権を得ようと思うなら，その人はイエス・キリストのようにすべての戒めを守り，主の宮居のあらゆる原則に従うことによって得なければならない。」

「神の相続人となり，イエス・キリストと共に連帯の相続人となるすべての人々は，主の王国の完全な儀式を受けねばならないのである。すべての儀式を受けない人々は，たとえ栄光の全部を失うことがないにせよ，完全な栄光を受けることはできない[12]。」

神殿は完全な教会組織に欠くことができない。予言者は，「神殿が建てられ神権の儀式が執行される場が備えられるまで，教会は秩序ある完全な組織では



第2番目の神殿（キリスト教徒によってヘロデの神殿と呼ばれた）の大きな模型がエルサレムのホーリーランドホテルに展示されている。

ないし，完全な組織にはなり得ない[13]」と言っている。

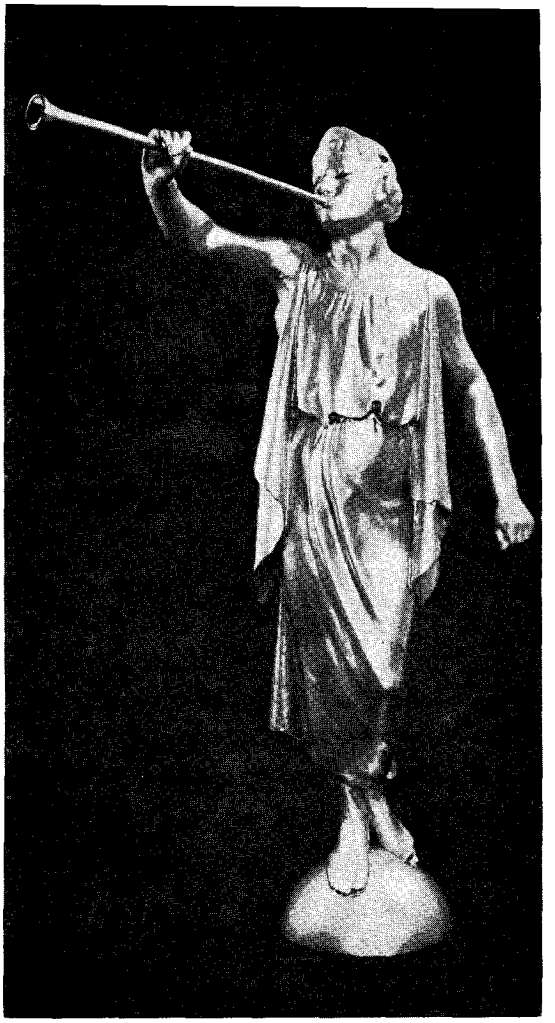
1844年4月8日，ノーヴーにおける教会の大会説教の中で予言者は聖徒たちにこう語った。「私はかように主から指示を受けた。すなわちこののちイスラエルの長老たちが国で教会や支部を建てるところはどこであっても，将来シオンのステーキ部となるであろう。ボストンやニューヨークなどの大きい都市にもステーキ部が生まれるだろう。これは栄光ある宣言である。私は洗いや灌油やエンダウメントがここで執り行なわれてから後に，この業が始められることを理解してもらえるように，最後までその宣言を残しておいたのである[14]。」

神殿は世の義人のための要塞である。悪魔はそれらに敵対しているのである。悪魔は最初の神殿が建てられた後で，我々の先祖に敵対する人々の心をかき立てたために，聖徒たちはカートランドやノーヴーから立ちのくことを余儀なくされたのであった。それらの神殿の中で与えられた偉大なあふれんばかりのみたまと力がなかったならば，恐らくは教会も存続しえなかったかもしれない。

神殿は主が「主の民に主の家の儀式と主の王国の栄光を啓示し人々に救いの道を教える」ことに加えて，生ける聖徒たちが昇栄のために必要な，より高い神権の儀式を受ける場所でもある。

我々はみな必要な福音の儀式を知っている。まず第1にバプテスマ，第2に聖霊の賜を授けるための按手礼である。これらの儀式は生ける人々に神殿以外の場所で執行されている。第3番目の儀式は神権を授けるための按手礼であり，これも同様に神殿以外の場所で行なわれる。しかしエンダウメントや結び固めの儀式に関する福音の高い儀式は，神殿の中でのみ執り行なわれるのである。予言者ジョセフ・スミスは，人は自分自身のためにこれらの儀式を受けないならば，救われない（昇栄を得られない）ことを明らかにしている。

「私はすべての聖徒たちが力を尽くして彼らの生きている親族をすべて集め，結び固められ救われて，やがて殺りくの天使がやって来るその日に備えるために神殿に行くように勧めたい……。」



『これらのすべての儀式を受けなければ救われないのですか』としばしば尋ねられる。私はこう答えたい『そう，完全な救いは得られません』と。

イエス・キリストは『わたしの父の家には，すまいがたくさんある。あなたがたのために場所を用意しに行くのだから……』と言われた。昇栄して1番よいすまいに住む人はだれでも日の栄の律法はもちろんのこと他の全部の律法に従わなければならないのである[15]。」

神殿において我々は，妻や夫，子供や先祖と永遠に結び固められるのである。

我々の指導者は，家庭は末日聖徒の生活の中心であると繰返し述べている。夫と妻，子供と両親の結び固めがなかったならば，来世での家族関係はなくなり永遠の家庭は存在しないのである。何と悲しむべきことであろうか。家庭なくして天国に幸福はあり得ないのである。私の愛する妻や子供たちのいるところはどこであろうと私にとって天国である。そういうわけで私は，若い頃に私と妻が今も永世にも

わたって結び固められたソルトレーク神殿は，私たちにとって天国への門のように思えるのである。結び固めの儀式を受けることのできる時代と場所に恵まれなかった我々の先祖たちにとってもまた，神殿は天国への門である。

ニコデモとの話でイエスはこのように言われた。「だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない。」（ヨハネ３：５）この聖句は背教したキリスト教会を悩ませてきた。

イエス・キリストの教えを知ったふりをする人々は，バプテスマを受けずに死んでいった無数の人々は天国に入れないと言っている。また，そのようなあまりにも明らかな不公平さに反対する人々は，イエスがそのように意味して言われたのではないと主張するのである。このように，彼らは他の福音の救いの儀式同様バプテスマを拒否しその必要性を否定しているのである。

実際にはそのようなジレンマは存在しない。それは，神殿内において福音の欠くべからざるすべての儀式が，死者のために代理に執り行なわれる方法を主は用意しておられるからである。近代に神殿が建てられ，何千というすばらしい熱心な働き手の援助を受けながら神権系図委員会の有能な指導者の下に系図の仕事が大きく進められているのを見て，霊界にいる我々の天父の忠実な子供たちの喜びはいかばかりであろうか。

神殿や，我々が天に昇るのを可能にするために備えてある方法を心の中に深く考えると，あのヤコブの夢の教訓が思い出される。創世記の28章の中に，ヤコブが自分の民の中から妻をめとろうとして彼の父の地に戻った話があるのを思い起こされるであろう。ヤコブがベエルシバをたってハランへ向かった時に，彼は夢を見た。１つのはしごのそばに自分がおり，そのはしごは天にまで達してその上に主が立っておられるのである。彼は神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。そしてヤコブはそこで主と交わした契約ははしごの横木であり，彼が天で主と共に住むことができるという約束の祝福にあずかるためには，自分もそのはしごをのぼらなくてはならないと悟ったのである。

彼はそこで主にまみえて契約を交わしたので，その場所を非常に神聖に思いベテ・エロヒムを縮少してベテルと名づけた。その意味は，文字通り「主の宮居」であった。彼は言った「これは 神の家である。天の門だ。」（創世28：17）

ヤコブは天の門をくぐったばかりでなく，あらゆる契約を守りながらその道を通っていった。彼や彼の先祖アブラハムやイサクについて主は言われた。「……彼らは共に神より命ぜられたることのほか何事をも為さざりしにより，約束に従い最高の栄に進むを得て王位に坐せり。彼らは天使にあらずして神々なり。」（教義と聖約132：37）神殿は我々にとって，ヤコブに対するベテルのようなものである。いや，それ以上のものだろう。そして神殿は我々すべてのエンダウメントを受けていない親族の死者にとっても天の門である。我々はその門を通って愛する人々をつれ行く義務を果たさなくてはならない。

1．ヤコブ　1：17；2：2，11
2．モーサヤ　11：10，11
3．モーサヤ　1：18；2：1，5―7
4．Ⅲニーファイ　11：1―11
5．アルマ　16：13；23：2；26：29
　ヒラマン　3：9，14
6．ジェームス・E・タルメージ，「主の宮居」（末日聖徒イエス・キリスト教会1912年）P.1
7．同上　P.2
8．同上　P.4
9．同上　P.4
10．同上　P.5
11．同上　P.6～7
12．「ジョセフ・スミス著　末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」B・H・ロバーツ再版　5：423―424（英文）
13．同上　4：603
14．同上　6：319
15．同上　6：184

『家族と永遠』

十二使徒評議員
ボイド・K・パッカー

以前，私は結婚生活に破れ，その後一人息子を失ってから教会の会員となったある姉妹と話をしました。彼女の一人息子は9歳の時，死んでしまったのです。彼女は私が深く心を打たれて決して忘れることのできないことを話してくれました。彼女は離婚後自分と息子の生活のために働こうとしていた矢先に，その息子が病気になってしまったのでした。彼は死ぬ前に，長くは生きられないことに気がつきました。

その時から彼は心の中で1つのことのみを考え，何度も何度も嘆願するように言っていたそうです。「お母さん，僕を忘れないでね。いつまでも覚えててくれるね。」

死に瀕したこの少年の願いは，我々すべての思いを代弁しており，忘れられたくないという願望を表わしています。

私がニューイングランド諸州の伝道部を管理していた時に，教会に加入してから間もなく，5歳になる一人娘を車にひかれて失った母親から1通の手紙を受け取りました。葬式の後，数週間この傷心の母親はふさぎこみ娘の死を悲しんでいました。その別離の苦しみの中で，彼女は手紙で2つの質問をしてきました。第1の質問は，「すべては暗黒なのでしょうか，教えて下さい。私は娘にとってすべては暗黒であるなどと考えたくはありません。」第2の質問は，「彼女はずっと1人なのでしょうか。どうか娘は1人ぼっちではないと言って下さい。彼女は今，全く1人ぼっちだと考えると耐えられません。」この母親に我々は慰めを与えることができたことをほんとうにうれしく思っています。

死後に何が起こり，何を予期することができるかについて現在多くの知識を与えてくれる啓示を受けていることに私は心から感謝しています。家族を保護することは教会の偉大な使命の１つであります。主は我々に家族を永遠に構成する方法を啓示して下さいました。神権系図の働きは神殿儀式の方法を備えてくれ，その儀式は教会の基本的な組織すなわち家族を永遠のものにしてくれるのです。

我々は末日聖徒として，以下のごとく啓示を信じています。「われらは，すべて神のこれまでに啓示したまいしこと，すべて今啓示したもうことを信じなお今より後，神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」（信仰箇条第９条）

私は多くの末日聖徒が上の宣言の後の節を読んではいないと思います。聖徒たちは，神がこれまでに啓示されたことをすべて信じていますが，私はみなさんと，「すべて今啓示したもうこと」を論じたいと思います。啓示については，教会図書の最も興味ある本の中の１冊，マサイアス・F・カウリーによる「ウイルフォード・ウッドラフの伝記」の中に良く書かれています。この教会の大管長と彼の時代の詳細な歴史は，注意深く書かれた彼の日誌を通して明らかにされました。

1894年４月５日，ウッドラフ大管長は日誌にこう記しています。「私は養子縁組とエンダウメントのことに関して話すために兄弟たちと会った。次がウイルフォード・ウッドラフへの啓示である。」 次のページは，空白になっていましたが，啓示は失われてはいませんでした。1894年４月の教会の一般大会の話の中で彼は言っています。「それ故に，主は聖霊によって動かされなければ話してはならぬと命じられた。話をするために私は末日聖徒の信仰と祈りを必要としている。末日聖徒の前に述べ伝えたいと心の中に思っていることがある。そのためにジョージ・Q・キャノン副管長に，私が話したいと思っている主題に関して教義と聖約から読んでいただこう。」 大管長会の第一副管長であるジョージ・Q・キャノンは家族の絆の持続について読みました。これに続いてウッドラフ大管長が話をしました。

「（128章を引用しながら）このように我々が末日聖徒の前に提示したい主題がここにある。我々は非常に重要な時代に住んでいると申しあげたい。我々は力と権威に恵まれて，神の命によって聖い神権を有して地上に立ち，生ける人々と死者の両方をもあがなうために存在しているのである。もし我々がそれをしなければ，我々は罰を受け地よりたち切られてイスラエルの神は他の人々を起こされるであろう。主は，もし私が聖いみたまと神の啓示を受け得ないならば，私が生涯の１日たりともこの地位にあることを許したまわないであろう。もはや，この教会が啓示なしに存在することはあり得ない。教会の大管長だけでなく，副管長や使徒，聖なる神権を有するすべての人々はこの賜を持ち，人々にそれを施すべきである。全神権者が教会員を導くべく啓示を伝えるよう必ずしも召されないかもしれないが，もし全力を尽くして自分の召しを遂行するならば前述のことは可能なのである。

啓示のみたまは神権につけるものなのである……。

「（養子縁組とエンダウメントの問題を再び参照しながら，）あなたがたはすでに持っている多くの光と知識を用いてきた。しかしあなたがたにはすでになしてきたより多くの今なすべきことがある。我々は先祖の心を子供たちに子供たちの心を先祖に結び固めるという神の我々に対する啓示を十分には遂行してきていない。」 それから，この神権時代の最も奇しきみ業を告げる１つの簡単な文章の中で啓示の本質が宣言されました。「我々は末日聖徒たちが今からできるだけ遠くまで系図をたどり，先祖と結び固められることを望んでいる。子供達を両親につながせ，この鎖をできるだけ長くしなさい。」

ウッドラフ大管長は言いました。「主は私の祈りに答えられて，私の義務はすべてのイスラエルにこの原則を実行させ，その啓示を成就させることは私の義務であると言われた。私はこの民の前にその義務を置こう。私は神殿の中で働いているすべての人々がこの原則を実行するようにと申しあげる。その時我々は以前にもましてさらに一歩前進するであろう。私と副管長達はこの点について話し合い同意を得た。その後，ここに出席しているすべての使徒達

にはかった。……主は使徒の全員に啓示された。彼らはもし要請されれば，それが主の言葉であると証を述べるであろう。
教会における私の生涯で，この原則の中に見出せるほどの一致を見たことはない。彼らはみなそれについて正しいと感じている。系図は我々の義務である。」（1894年5月19日，デゼレト・イブニング・ニュース）

1894年11月13日に，ソルトレーク市の教会歴史事務局で1つの集会が持たれました。大管長会のすべての会員，すなわち大管長ウイルフォード・ウッドラフ，第一副管長ジョージ・Q・キャノン，第二副管長ジョセフ・F・スミスがその集会に出席しました。十二使徒定員会会長のフランクリン・D・リチャーズや他の定員会の会員達もその集会に参加していました。慈善的，教育的，かつ宗教的目的と家族の絆を持続させる目的でユタ系図協会が組織されたのでした。今日，教会の中には家族を結ぶために働いている組織が他にもあります。ステーキ部や伝道部，ワード部や支部，地方部などです。その各々は神権役員によって管理されています。これらの組織は一時的なものであって，永遠の組織ではありません。それは組織され得るし，あるいは解消し得るのです。
ステーキ部はよく分割されるし，形や大きさで境界も変わります。その結果組織された時とは全く違ったグループの人々がいるかもしれません。これらの組織は神権の権威の執行上の便宜のためにあります。ワード部やステーキ部の中で働くために役員が召されますが，彼らは一時的に奉仕するだけです。監督やステーキ部長は，いつか変わります。これらの役割は人間の肩に課せられた一時的なものなのです。しかし一方，家族は永遠の組織となり得ます。家族はあるワード部やステーキ部から他の所に移るかもしれませんが，家族という組織はそのまま残ります。死すべき世から霊の世界すなわち永遠の世に移ることさえあるのです。

親としての地位は一時的ではなく，永遠に続くものである。

神殿内で神権の下に構成された家族は，あらゆる儀式のうちで最も意味深い儀式を受けたと言えます。夫婦が「新しく且つ永遠の誓約」を結ぶ時，彼らは霊的にも肉体的にも生命力を完全にあらわし得る可能性を持つのです。これは軽々しくあつかわれるべき責任ではありません。個人のそれまでの全生涯を通して守られ，とっておかれた神聖な生命を与える肉体的な力は，家族に子供を得るという聖なる清い目的のために，その時に解き放たれるのです。家族の中でのこの地位，すなわち親たる地位は一時的なものではなく，永遠のものであるべきです。教会の管理役員達は時々変わりますが，父親や母親をそう変えるわけにはいきません。父親がその責任に勤勉でない時に何が起こるでしょうか。時々，我々は彼は変えられるべきだとさえ考えるかもしれません。しかしだれがそうする権威を持っているのでしょうか。監督は日曜学校の管理会長を解任することができますが，家族の父親を解任することはできません。彼はそんな権威を持たないし，ステーキ部長も持っていないのです。教会幹部はその権威を持っているでしょうか。私は家族を管理することから父親を解任することはできないと知っています。父親たる召しは特別なものであり，「新しく且つ永遠の誓約」の中で永遠であり，解任はないのです。もちろん罪悪によって解任はやってきます。予言者，大管長に取っておかれている権威によって，結合の絆は解かれ得るのです。しかしながら，それは監督やステーキ部長の指示で行なうのではありません。個人が誓約を破り，罪悪を犯しふさわしくなくなった時にその解任はやってくるのです。我々が家族とは何であるか，結んでいる絆とは何か，結婚の誓約とは何かを知る時に，今日多くの人々が結婚の誓約に入りながら自分自身を解任していること以上に愚かでばかげた，また主を怒らせることはないと思わざるを得ません。実に我々は人類の歴史の中で神聖で極めて大切であるとみなされてきた結婚の誓約が，多くの人々によって無効だと言われている世の中にいるのです。その結果として霊が肉体を得るという神聖な生命の過程はだめにされているのです。新しい霊が肉体に宿るために通らねばならない生命の路はしばしば，避妊の実行によって妨げられています。それでも時には妊

娠することもありますが，堕胎は今やごく普通のことになっています。そして霊たちは彼らがきたところにつれもどされるのです。私が教義と聖約の128章を読み，もう一度読み返した時に，私は主が死者や死者のための身代わりのバプテスマを引き合いに出しているばかりではなく，主は生ける人と死者との救いについても話しているという事実に感銘しました。その章を読むと，生きている人々と死者がどのようにして一緒になるかに気づくはずです。同じ原則が双方に関係しています。

系図の探求を通して家族を共に結ぶこと，その後引き続き神殿内で結び固めの儀式を行なうことは，生きている間家族を保護しその構成員を共に結ぶという大切な計画によって強化されているのです。教会の歴史の中で，現在の２つのプログラム以上に生ける人と死者とを結び合わせるために恵まれていたプログラムはありませんでした。

もし我々が家族関係を持続させようと望むならば，その目的のために価値あるあらゆる事柄をなさねばならない。

我々には家庭の夕べのプログラムやホーム・ティーチングプログラムがありますが，この２つとも家族を強め安定させることを目的としています。家族単位を永遠にし，霊界においてもそれを共に保つために，系図のプログラムと神殿の儀式があるのです。「われらは，すべて神のこれまでに啓示したまいしこと，すべて今啓示したもうことを信じ，なお今より後，神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」このためにこれらのプログラムがあるのです。もし我々が家族を維持しようと望むならば，その目的のために価値あるあらゆる事柄をなさなければなりません。

この死すべき世にあって幸福な家族生活を支えるために数多くのことが言われてきています。真の意味においてそれは神権系図の仕事として知られていることと非常に固く結びついています。エライジャの来訪について128章に書かれています。このことは紀元前400年にマラキによって予言されていることで，旧約聖書の終わりにこう書かれています。「見よ主の大いなる恐るべき日が来る前に，わたしは予言者エライジャをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て，のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(欽定訳マラキ 4：5—6)オークランド神殿の献堂式の時に話された，ハロルド・B・リー長老の言葉を引用してみましょう。「我々が今日話している全教会的な家族を教える計画のことを考えて頂きたい。……ジョセフ・F・スミス大管長と副管長たちは，教会員が１週間に１度子供たちを集め福音を教えるならば，そのような家庭で子供たちは決して堕落することはないと約束された。

そこで今日，何を行なうための教えが備えられているであろうか。この地上で両親の心を子供たちに子供たちの心を両親に向けることである。両親が死に瀕している時，その時だけが両親がその心を子供たちに向け，また子供たちが両親に心を向けるなどと考えることができるであろうか。私はみなさんが子供たちに福音を教えることを怠って，心から子供たちを愛する前に死の幕を通るとすれば，みなさんがたの家族の絆が安全かどうかを真剣に考えていただきたいと思う。今や生きている間に両親の心を子供たちに向けることを考えるべき時である。

我々はかつてなかったほどに，この地上における家族の結合に関心を抱いている。

親子の間には死を越えて続く絆がある。それはまさしく実際的な原則であり，我々はよく考えるべきなのである。」

ですから今日では，神権系図の働きは活発であり，かつてなかったほどに強調されています。神殿における働きやワード部，ステーキ部が組織を通して系図探求を行なっていることはウッドラフ大管長に与えられた啓示の現代における実践なのです。我々はかつてなかったほどに，この地上における家族の結合に関心をはらっており，永遠に家族が結ばれるようにと望んでいます。家族のあらゆる時代の人々を系図探求によって共に結びつける以上に奇しき経験がまたとあるでしょうか。

系図入門

十二使徒評議員
ハワード・W・ハンター長老

もしエライジャのみたまにより突然火がつき，系図探求と神殿の儀式がイエス・キリストの福音の一部であることを知れば，あなたは何を行なうべきか知りたいのではなかろうか。

過去数年間，これらのプログラムが強調し続けられてきたにもかかわらず数千の末日聖徒にはその質問の答えが全くわからないようである。系図探求と神殿の仕事に従事している人々からしばしば尋ねられる質問で，「どのように始めますか」「どこから始めますか」という質問ほど多いものはない。このような質問に対する答えはある人にとってはまったく明らかであるかもしれないが，多くの教会員は確かにまだ指示と説明を必要としている。

やる気と自信は知識から生まれるのである。いくつかの大切な言葉に従って十分な基礎知識を得ることにより，あなたは自信を増し，この偉大な福音の業に従事せずにはいられなくなるであろう。

まず，すべての教会員が行なうべきことは，家庭や身近な親族から得られる自分自身に関する情報をできるだけたくさん集めることである。この目的は個人としてのあなた自身を明らかにし，またあなたがだれの子孫であるかを知ることである。

欠くことのできない事項といわれている，日付，名前，場所によって，あなたが家族の一員としてこの世に生まれたことがわかり，またあなたが数多くの人々と共に天父の子供の一人であることがわかる。あなたは家族の記録用紙に記録されたこの情報によって，その家族における親または子供であることを立証するのである。これは証明する必要がないほど明らかなことであると思われるが，これが先祖と鎖で連結するために欠くことのできない第一歩なのである。

あなたは，この完成したシートと再び容易に入手できるように適切に記入した情報とを用いて，一代さかのぼりその家族のために同じことをしなければならない。あなたが親として記入したように，この次の家族はあなたの父と母であり，あなたは子供として記入される。さらに一代さかのぼると，2組の祖父母の家族の記録ができる。第4段階は4組の曾祖父母に関する同様の情報である。

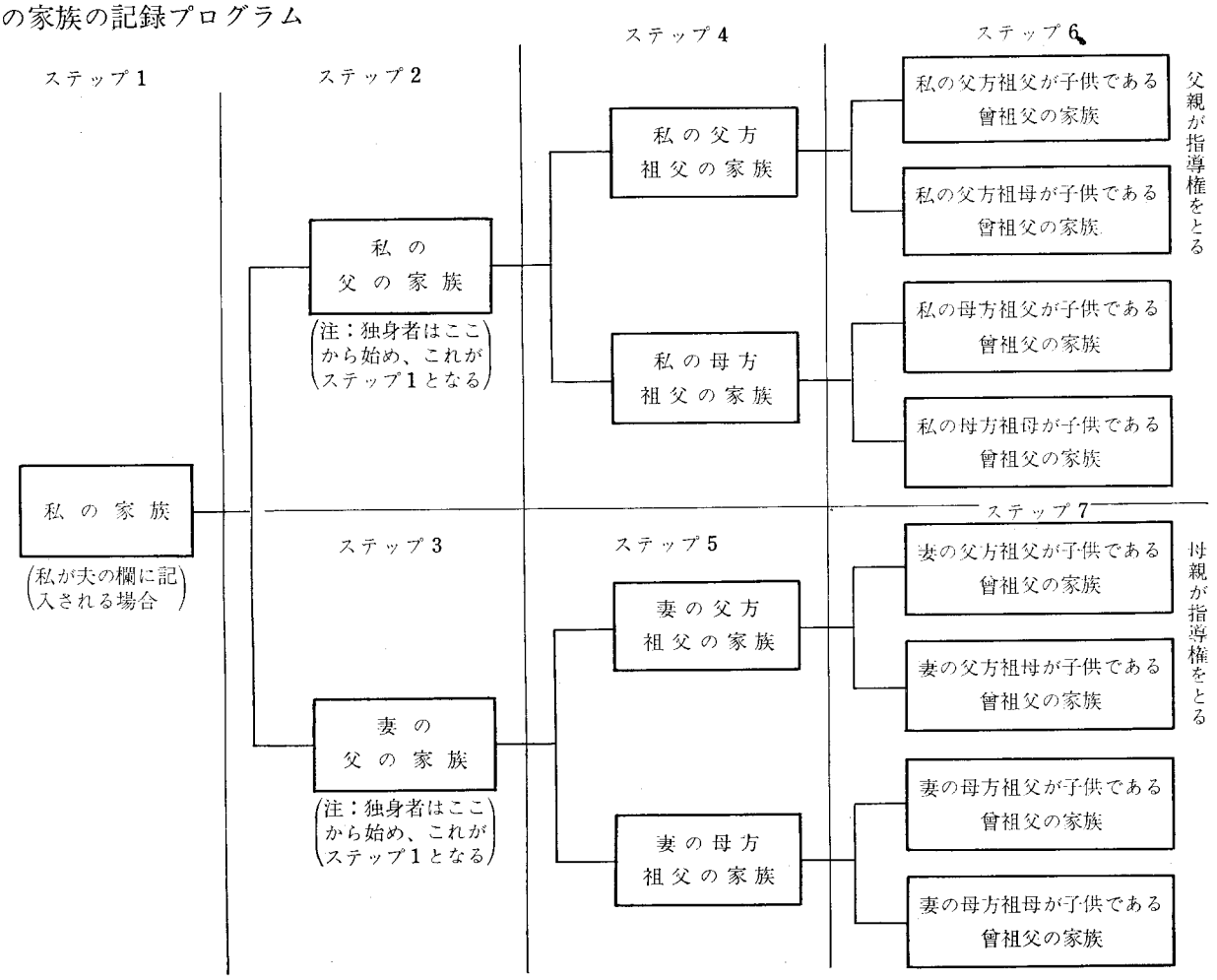
これが，教会が大切な系図探求を行なう手始めとして各教会員にすすめている根本事項である。これらの家族の記録は，教会の4代の家族の記録プログラムで扱われるように，ワード部大祭司グループリーダーへ提出されねばならない。次いで，大祭司グループリーダーは検査のためにそのシートをワード部記録検査員に渡す。もし記入事項に誤りがあれば，どのように訂正しなければならないか，というメモを添えて，グループリーダーはあなたにそのシートを返すであろう。訂正され受理された家族の記録は最後には大祭司グループリーダーを通じて系図協会の記録保管所に送付される。

あなたはそれぞれの家族の記録の写しをあなた自身の覚えの書に入れて保管すべきである。またそのシートは，ペディグリーチャートを作成するために使われる。

これはこの大切な仕事の第一歩であり，あなたは手助けなしにこれを行なえるはずである。

また多くの資料がその役に立つであろう。ワード部大祭司グループリーダーは，このプログラムにおける監督へのアドバイザーとして任命されており，この仕事をするワード部の会員を

4代の家族の記録プログラム



助けるためにいつも準備している。

教会員が家族の昇栄の原則を学ぶ機会を持つように，ほとんどのワード部で監督の指示のもとに神権系図クラスを定期的に開くよう計画されている。その実施作業方式のレッスンにより，会員にそのプログラムの基礎と系図探求の準備をさせるのである。

クラスで使われる小冊子と教科書がある。

また，ワード部の神権指導者のために「神権系図の手引き」という小冊子があり，そのほかに教会の全神権系図プログラムについて略述された「家族の昇栄のための神権プログラム」と呼ばれる小冊子がある。それにはワード部内でその教会プログラムをすすめるための詳細な説明が記されている。

この仕事に要する物量は莫大なものである。ソルトレーク市の記録保管所には現在，系図関係の資料として，マイクロフィルムが750,000巻，書籍が100,000冊以上ある。

系図探求と神殿の儀式は，すべての末日聖徒の義務である。現在の神権系図プログラムは，もし我々が何もしなければ，我々の大部分が容赦なく取り残されるところまで広がっているのである。

我々の死者は，我々が名前を捜し出し，次に神の神殿に行って儀式を執行するのを待ち望んでいる。そうすることにより，彼らは霊界の囚屋から放たれるのである。予言者ジョセフ・スミスに与えられたこの偉大な権能の鍵は今日我々と共にある。死者のための儀式を執行するこの権能は，死の縄目を立ち切るのである。我々はみなこのすばらしい愛ある務めに喜びを見出すに違いない。

トミーくんへ

十二使徒評議員

マーク・E・ピーターセン

あいするトミーくん。

私はいま，きみが今月，それもたんじょうびに，バプテスマを受けたということをききました。こころからよろこんでいます。それというのもバプテスマは，きみのこれからの人生に大きないみをもつからです。

私たちは8才になるとバプテスマを受けて，イエス・キリストの教会にはいります。そして教会からたくさんのしゅくふくを受けるようになるのです。バプテスマは主のいましめですから，私たちはみんなそれを受けなければなりません。

バプテスマはただの教会のしゅうかんとして行なわれるものではありません。それは，主のいましめだから行なわれるのです。バプテスマはふくいんと同じようにむかしからありました。アダムは，きみたちと同じく水にしずめられるバプテスマを受けました。そののち，なん百万というおおぜいの人たちがバプテスマを受けてきました。

バプテスマをさずけてくださったのはイエスさまです。イエスさまはさいしょにアダムにさずけられました。そしてこの世に生まれてきたすべての人たちにこのきかいをあたえられました。8才いじょうの人たちが，みなこのぎしきを受けなければならないことをおしえるために，イエスさまごじしんもバプテスマを受けられました。

私たちがなぜ水にしずめられるバプテスマを行なうのか知っていますか。たいていどの教会でもせんれいとよんでいるぎしきをしんじていますが，それはただ子供のあたまの上に水をふりかけるものです。

ぜんしんを水にしずめること，これこそほんとうのバプテスマのやりかたです。そしてこれにはほんとうのいみがあるのです。きみは生まれてからずっとイエスさまをしんじてきましたね。またイエスさまがどのように人びとにおしえ，小さな子供をしゅくふくし，死んだ2人の青年と少女をいきかえらせたかを知っていますね。それにもかかわらずイエスさまは，ざんこくな人たちにとらわれてじゅうじかにはりつけにされました。

私たちの天のお父さまは，私たちに多くのしゅくふくをあたえるために，イエスさまがじゅうじかにおかかりになるままにされました。イエスさまは死ぬときにとてもくるしまれました。イエスさまのお父さまであり，また私たちの天のお父さまでもある神さまは，私たちがつみをくいあらためるならば私たちのつみがゆるされるようにと，イエスさまがくるしまれるままになされたのです。

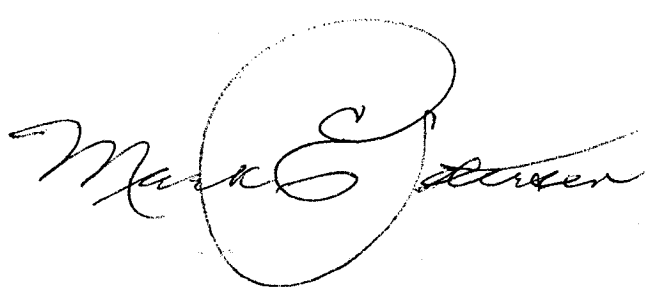
私たちがバプテスマを受けるときにはじめて，天のお父さまが私たちのつみをあがなうためにイエスさまをくるしむままにしておかれたことがいみをもつのです。

ではどうして私たちは水にしずめられるのでしょうか。それは，キリストがほうむられたこととふっかつされたことをあらわしているからです。イエスさまが，ちょうどはかにほうむられたように，私たちは水の中にしずめられるのです。イエスさまは新しいいのちをあたえられて（ローマ6：4）ふっかつし，はかから出て来ました。ちょうどそのように，私たちもバプテスマの水から出たとき新しくふくいんの生活にはいって主にしたがい，主のいましめをまもるようになるのです。

これでわかるように，私たちのベプテスマはキリストがほうむられて，ふっかつされたことをわすれないようにするためのものなのです。これは私たちにとって，バプテスマがどんなに大切であるかをあらわしています。バプテスマはいつも，キリストが私たちのために死んでふっかつされたことを思い出させてくれます。ちょうど，私たちがバプテスマの水からかならず出てくるように，私たちはすべて死んだのちにはかから出てきます。そしてそのあとこのようなことをすべてできるようにしてくださったすくい主とともに，えいえんに住むようになるのです。

トミーくん，きみのバプテスマをかんしゃしなさい。そして，きみがほんとうのイエス・キリスト教会のかいいんであることを心にとめなさい。

今からきみは，いつもイエスさまをおぼえそのいましめをまもるようにしなければなりません。（きょうぎとせいやく20：77）それは，いつの日にか，イエスさまにおあいしてイエスさまといっしょに天国でえいえんに住むためにひつようなことです。主があなたをつねにしゅくふくされるようにお祈りします。



老犬ラグスのたすけ

作　エバ・グレゴリー・デ・ピメンタ
え　ジェリー・トンプソン

黒と黄かっ色のまじったプリンスの毛は，ティムのだいすきな銀色にかがやいていました。プリンスはかしこくてするどい目をしていました。このシェパード犬は，年とったラグスのしていたしごとのあとを引きつぐよういができていると，ティムは信じていました。

ティムはあつでの上着をきると，コートをだしてその上にきました。

「おまえをためすいいきかいだよ」とプリンスにいいました。

「みぞれからどうやってのがれたらいいのか知らないばかな牛たちをつれにゆこう」

じぶんのすみかにしている台所のストーブのかげからティムを見ていた年とったラグスは，立ちあがると前にすすみでてはげしく尾をふりました。

「お前はついてくるんじゃないよ！」とティムはしらがまじりのよぼよぼの老犬にいいました。

「おまえがくると，プリンスになにもさせないじゃないか。いつかはプリンスもおぼえなくてはならないんだから。」

プリンスがティムの家にきてから，ティムはラグスにあまり気をくばってやりませんでした。ティムが出て行くと，プリンスは彼のあとについて行きました。彼がなやにつくころラグスは用心ぶかくかんかくをおきながら，おいかけて行き

ました。ティムは，ラグスがずっと前からドアのあけしめをおぼえていたことをわすれていました。

老犬ラグスの姿を見つけたティムは「ついてくるんじゃないといっただろう。」とどなりました。

「おまえなんかじゃまになるだけだ。おまえはやきもちをやいているんじゃないのかい。」

ティムはきゅうにあることを思いつきました。プリンスがくる前に彼がよくつかっていたしたしげなやさしい声でラグスをよびました。ラグスははじめためらっていましたが，やがてとびついてティムのかおをなめました。

「これでよし！」とティムはいらだたしくいいました。彼はしっかりラグスの首をつかむと，お母さんがにわどうぐ入れに使っている小屋に引っぱっていきました。そして，ドアをあけてラグスをおしこめるとすばやくドアをしめて外からカギをかけました。

ものおき小屋の小さなまどぎわを通ったとき，ラグスがうしろ足で立ってしきりとうったえるようにほえている姿が見えました。ティムは心がせめられるのを感じましたがすぐにわすれてしまいました。

それは土曜日のことでした。ティムは，一日中家にひとりでいました。彼の両親はあさ早くから町のびょういんに妹をむかえに行っていました。

ごごを少しまわると，冬のはじめのきりさめがみぞれにかわってきました。3時ごろでした。こおりついたみぞれにおおわれた木々が重くたれ下がっていました。ティムは自分の馬のトローパーにくらをおくと，おかにむかって走っていきました。

プリンスは，あたたかい牧場の家をときどきふりかえってはいやいやながら馬のあとについて行きました。

「すぐに帰るようにするよ。」 とティムははげますようにいいました。

「おまえとぼくとでいそいで牛たちを家に入れてやろう。」

ティムは牛がどこにいるのか知っていました。けれども，おいかけていくその道はけわしく，きけんなうすい氷がはっていました。トローパーはあたまをさげたままゆっくりとあるきました。ティムはみぞれにうたれないように上着のえりをたてました。

「プリンス，見てごらん」とティムはけいこくに近づくとさけびました。

「あそこにいるぞ！」牛は，けいこくのはるかかなたにむれをなしていました。

「ようし見つけたぞ。さあ，おまえはあそこから牛をつれだすのだよ」とプリンスにいいました。だがプリンスはトローパーのそばからはなれようとはしませんでした。プリンスはどうすればいいのかまよっている目つきでティムを見ました。

「さあ，ついておいで！またおしえてあげよう。」 とティムはにんたいづよくいいました。

ティムは，時間をかけずに急なさかを通ってけいこくのはじへおりて行こうと考えました。彼は何回もおりて行ったことのある土手を馬でおりて行きました。馬はあぶないところを用心しながらちゅういぶかくおりて行きました。

トローパーが足をすべらせはじめたのは，もうけいこくのそこのあたりまできていたときでした。馬はいっしょうけんめいにまっすぐ立とうとしましたが，氷におおわれた石とこおりついた土は，足もとからくずれおちていきました。ティムは，あぶみから足をぬこうとしましたがもうおそすぎました。

馬がころんだひょうしに，ティムはくるぶしからひざまで強いいたみをおぼえました。彼は，いっしょうけんめいにたづなにつかまっておきあがろうとしましたが，またころんでうめき声をあげてしまいました。

プリンスはこうふんしてほえたて，もがいている馬をかるくかみました。そしてトローパーがひっしになっておきあがろうとしても，ティムはどうすることもできずにただ見ているだけでした

馬はおきあがってから体をゆすぶり，いななきながら，けいこくをとびこえ，牛のむれのそばを通りぬけ，牧場にある家をめざしてかけだしました。

「ドオー！ドオー！」とティムは，よんでもむだだと思いながらさけびました。

「プリンス！トローパーをつれもどしてくれ！」しかし，プリンスはつれてこようともせずにげて行く馬のあとをおって氷ついた道をよこぎり，かけてゆきました。

冬のごごの白い光がきえてゆくころになると，ティムはもうプリンスが，トローパーをつれもどしてくるのをあきらめてしまいました。

あまりのいたさにはをくいしばりながら，ティムはひっしになって土手をはいあがろうとしました。しかし，ころんでまた下まですべりおちてしまいました。3回目にやっと土手の上にたどりつきました。

みをきるようなつめたい風がけいこくをふきぬけるときむちで「びしっ」とうたれたようなかんじでした。彼はつかれはてて氷におおわれた草の土によこになりましたが　このままいた方がいいのか，それとも長い道を家へかえった方がいいのかまよっていました。

牛のむれをみぞれからまもり，ミルクをしぼらなければいけません。でも，もし家へかえれたら近所の人たちにてつだってもらえると考え，彼はついに長くくるしい道をあるきだしました。ハイウエーはみぞれでおおわれていたので，ティ

ムは明日のあさまで両親の助けをきたいすることができないと思いました。牧場にはラグスしかいませんでした。そのラグスもかぎをかけられていました。

ところがとつぜん，氷のようにつめたい風にのって氷ついた道をかける馬のひずめの音と犬のなき声が聞こえて，その音はさむさでかんかくのなくなったティムのからだにしみわたりました。彼はありったけのちからで，こごえている両手を口もとにもってゆきました。

「プリンス，ここだよ！ここだよ！」とさけびました。しかしそれはプリンスではありませんでした。しんぱいしながらも喜んでいるなき声の主が，いまははっきりとわかりました。それはラグスでした。

ティムは地面にすわって，その老犬に顔をなめさせました。彼はうでを犬の首にまわして，カサカサの犬の毛の中に顔をうずめました。彼は，ラグスがいたさのあまりひめいをあげるまでラグスをはなしませんでした。

それからラグスはティムが立ち上がって，馬にまたがるまでしんぼうづよくそばに立ってほえつづけました。ティムがぶじに馬にのって家にむかったとき，ラグスはとてもまんぞくそうでした。彼はけいこくをかけおりて牛たちを家までおいたてました。

ティムは，なやにつくとすぐにランプに火をともし，トローパーからくらをはずしました。まぐさをかいばおけに入れると，こおりついたようなさむさはいくぶんやわらいでいくようでした。しかし足はまだとてもいたみました。2，3分してからラグスが牛をおってくるのが聞こえてきました。

牛が中に入ってえさを食べはじめると，ティムとラグスは家にむかいました。ティムが道具小屋を通りかかったとき，まどにあながあいているのをみつけました。まどわくにのこっていたガラスのはへんをしらべてみて，彼はラグスがいたさのあまりにひめいをあげたことを思いだしました。

ティムはひざまずくと，年老いたラグスをじぶんの方にひきよせました。彼はふかぶかとした毛の中をしらべているうちに，ラグスのからだに深いきずあとをみつけました。

ティムの口から思わずうめき声がでました。そして目は涙でいっぱいになりました。

「ラグス，おまえはまどガラスをやぶったんだね。トローパーがひとりで帰ったのを見て，ガラスをやぶって外へでたんだね。」そういってティムはなきだしました。

プリンスは，うらぐちのかいだんのところでまっていましたが，ティムのかかとにじゃれるようにしてかみつきました。

ティムはプリンスにむかって，おこっていいました。

「ラグスがいなかったら，おまえはラグスのようにしてくれたかい。」ティムはラグスをだまして道具小屋の中にかぎをかけて，とじこめたときのことを思いだすと気がひけました。それにもかかわらず，ラグスはそれをゆるしてくれただけでなく，自分をきずつけてまでも彼をたすけにきてくれたのでした。

彼はプリンスをゆるす気になりました。老犬ラグスは「ほんとうの忠実さ」ということを，ティムにおしえてくれました。ティムはプリンスにいいました。

「おまえはまだわかいんだ。老犬ラグスはきっとおまえがりっぱな牧場犬になれるようにおしえてくれるだろう。」

これらのことを学びました

第二副管長
N・エルドン・タナー

「いとも栄光に満ち，天使らに近き者とは清き若人である。この若人は現世において言葉に尽くせぬ喜びを得，次の世で永遠の幸福を受ける。」（大管長会の声明 1942 年 4 月 6 日）

もし私に願いがあるとすれば，現代の若人にこの偉大な約束と祝福を受けるにふさわしい生活をしていただきたいということである。私たちが存在する目的はつまるところ永遠の生命を得るよう自分自身を備えることである。みじめな状態や過去の行ないを悔いる状態よりも永遠の幸福の方を望まない者がどこにいるであろうか。

私は生涯にわたって若人の前に立ちふさがる大きな悪の力や誘惑に少なからぬ関心を抱いてきた。そして私の父が次のような大切な忠告を与えてくれたことにいつも感謝しているのである。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。」（マタイ 6：33）

この忠告を受け，さらに幼ない時から福音を学び理解してきたおかげで，私は多くの友人たちのように数々の誘惑に会っても悩まされることなく，その誘惑に立ち向かうことができた。若き日に接した人々のことを考える時に福音の教えを信じてそれに従い，誘惑に打ち勝つ力を備えていた人はさらに進歩成長を続け人生で成功を収めているという歴然とした事実に会う。一方正しい選択をしなかった人は，自分の弱点を認め，福音を受け入れ，そして誤っていたやり方を悔改めない限り一生涯その代価を払っている。

私は立派な人々と接することでつねに大きな力を得てきた。このことから私はたえず自分の子供や孫たち，また恵まれて親しくする機会のあった若人たちに，環境や条件がどうであれ良い友だちを選ぶようにすすめている。そして高い目標を定め，善悪をわきまえなすべきこと，またしてはならないことをはっきりと区別して行動するようにすすめている。このように決心をしない限り，悪をなさしめるような圧力を受けたり感情に陥った場合に善を選ぶことはほとんど不可能である。

私はスカウト指導者として，あるいは学校の教師，その他教会のいろいろな役職上，若人と接する機会に恵まれてきた。また多くの理由で若人に面接する機会があった。この経験から，福音の教えに従って生活している若人に

とって正しい選択は容易なことであり福音の真意を理解していない人々よりも幸福で順応性があることがわかった。

今の私には，人生のよいものを受け，また将来のために自分を準備するように両親が私に示してくれた模範，教育，愛と信頼に対して感謝しようと思ってもできないのである。

しかしあなた方は両親を信頼し，忠告や勧告に従うならば，両親から大きな助けを受けることができる。彼らはあなた方の幸福を願っている。あなた方の成功は両親である彼らの成功でもあるのだ。そしてあなた方の失敗は彼らにとっても失敗であり，あなた方と共に悲しみ，共に喜ぶ。幸福と成功を心から望むのであれば，戒めにある通りあなた方の父と母を敬うことである。あなた方には両親の知恵と経験という恩恵が必要である。

私は常に人類が現世にあるのは幸福を得んためであると信じてきた。そして人が善をなすならばさらに大いなる幸福を得，同時に成功を収めることができると確信している。事実私は娘たちに，青春時代に友と出かけるならばすばらしい時を過ごすよう，後に悔いが残ることのないすばらしい思い出となる時を過ごすようにといつも言ってきた。

朝の祈りの中で自分の行動に対する導きを願い，晩には良い報告ができるようにと祈ることによって，私は常にしなければならないことをする勇気を得ている。もし若人が以上のことを心に留め，天父がその子供たちに戒めを守るように願っていることを覚えるならば，誘惑に打ち勝つ力を得るに違いない。

私は現代の若者を心から愛し，大いに信頼している。悪の力や誘惑がかつてないほどに増していることは確かであるが，あなた方は以前の人たちよりもさらに良い教育を受け，誘惑に会う備えができているのである。そして企業やその他の面においても指導者としての責任を受ける備えができているはずである。

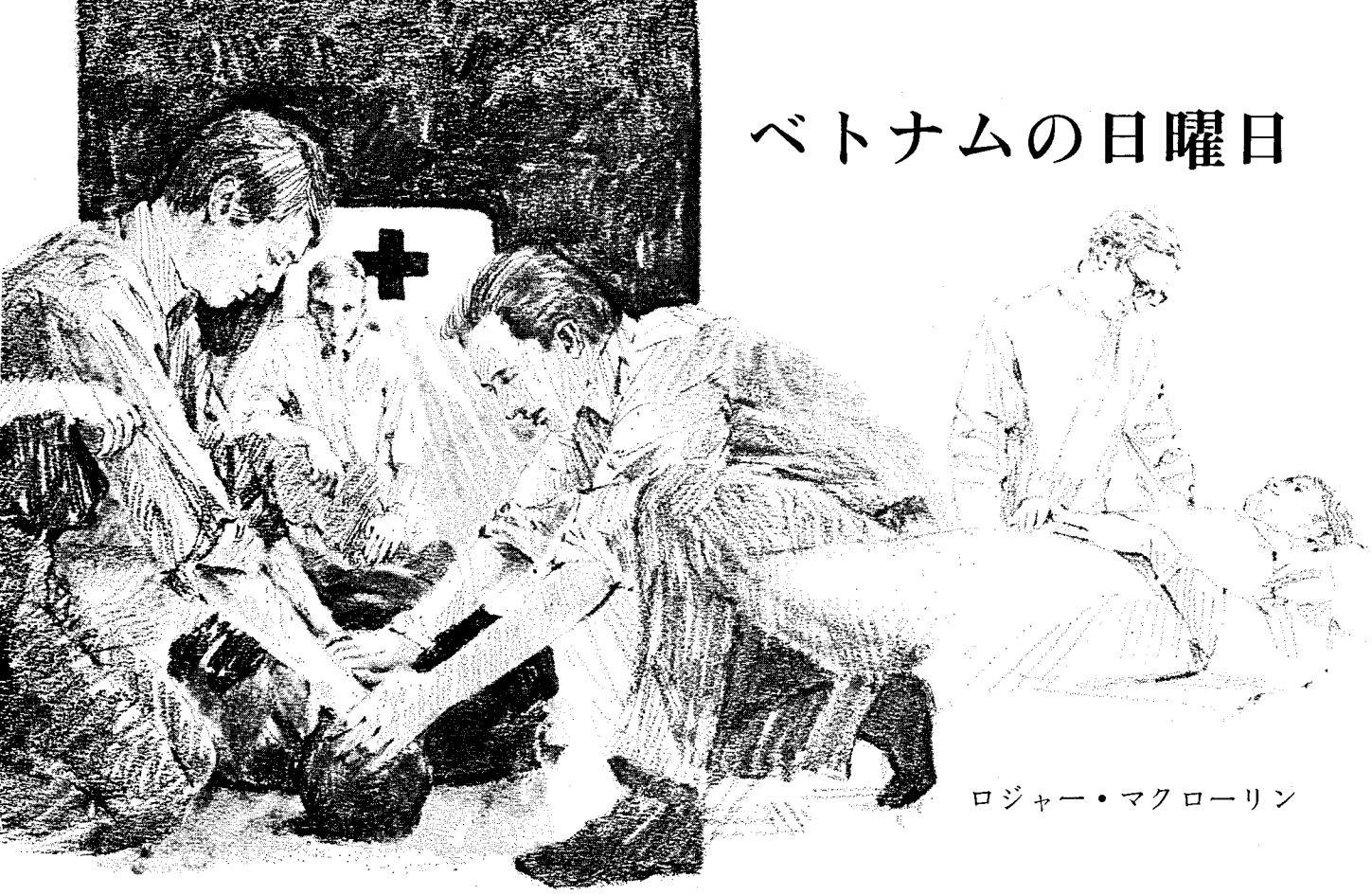
あなた方は私たちにとって将来の希望である。より良い世界を造ることがあなた方の特権であり責任なのだ。いかにすばらしい世界を造るか見届けたいものだと思う。これは肉体を強健にし，精神を目覚めさせ，道徳的に正しく，常に天父の導きを求める時にのみなし得ることである。アルコール，タバコ，そして麻薬はあなた方の信仰と共に能力をも減少させてしまう。

神の武具で身を固めなさい。神を信じ，正義によって行ないを決めるならば，決して道を誤ることなく，必ず幸福になるのである。現代の混迷した世の中に混乱をもたらす者の顔に幸福の影は見えない。しかし善を知ってそれをなす者は幸福への道を歩み，進歩を続ける。願わくばあなた方が現世で言葉に尽くせぬ喜びを得，次の世で永遠の幸福を受けられんことを。

「この記事はフィクションではなく実話である。著者ロジャー・マクローリンが空軍の医師としてベトナムに駐留していた時，彼とその同僚に起こったことである。

やわらかい日ざしが軽やかに波打ちながら私のたくましい身体にふり注いでいた。その光と暖かさを感じながら，私は眠気を誘う気だるさからそっと揺り起こされるようであった。それは今朝心の中が燃えたあの奇跡を思い浮かべたからであった。

その日は大会の日曜日だった。基地に残っていたモルモンは，ドンとトレーシー，それに私の３人だけだった。私たちは任務があったため，ナ・トラングの大会に行く休暇が取れなかったのである。私たちは同じ隊に属していた関係上，朝食が済むと一緒に集まって自分たちだけの聖餐式と証会を開いた。簡素な聖餐式で，２人が祝福すると残りの１人が祝福を施した２人にパスをした。しかしながら私たちにとってそれは，厳粛で特別な感じのする聖餐式であった。



ベトナムの日曜日

ロジャー・マクローリン

その簡単な会が終わると，トレーシーは中隊本部へ行った。私とドンは基地の取引所で１時間半ほど話をしたり，うすい粉ミルク入りのミルクセーキを飲んでいた。このミルクセーキはおいしいとは言えなかったが，ベトナムに来て時がたつにつれて少しずつおいしいと思うようになっていた。それからドンと私はＭＡＣＶ（ベトナム軍事助司令部）へ行ってベトナム人の洋服屋に会い，おみやげにするポンチョの上着を作る相談をしようということになった。

ドンの話ではトレーシーもこのポンチョを欲しがっているということだった。そこで私たちは早速傷病兵を運ぶ車に飛び乗りトレーシーを連れに飛行場へ向かった。救助小屋へ入って行ったドンはすぐに戻って来た。トレーシーは，戦闘中に死んだ兵隊たちの遺体が今着いたところなので手伝いに死体安置所へ行ったということであった。

私たちは少しの間そこに腰をかけ，トレーシーを連れに行こうかどうしようか迷っていた。もし行けば手伝うことになるだろうし，彼がいなくても構わないことだった。しかしたとえ休みに働くことになるとしても私たちは彼を連れて行きたいと思った。その仕事に終日かかり切らなければならないとしても，私たちはその方が気が休まるのをおぼえた。

外はうだるような暑さで，少し仕事をすれば汗びっしょりになるほどだったが，建物の中へ入ると冷房がきいていて，その暑さを吹き消してくれる潮風のようにさわやかだった。私たちはそこに立ち止まって涼しい風を受けながら，もし冷たくなりすぎたら汗が氷になって仕事をしなくても良くなるだろうなどと冗談まじりに話していた。

後の部屋に続くドアを通って出て来た陸軍曹長が丁寧に私たちの要件を尋ねた。ドンはトレーシーを探していると答えた。曹長は肩越しに親指を出して「後です」と言った。そこで私たちがドアを通って後の大きな部屋へ行くと，トレーシーがそこで働いていた。消毒液の強いにおいがひんやりと漂っていた。

トレーシーは，冷たい金属製のテーブルにのせられた全裸に近い死体の向こう側に立っていた。他にも８つのスチールのテーブルに死体がのっていた。まだ泥だらけで血がにじんだ軍服を着ている死体もあった。他はみなタオルを巻いているだけだった。部屋の中は明るく，死体を前にしていることを除けば，死体安置所の中にいるという感じはなかった。

トレーシーが顔を上げて笑いながら言った。「君たち，こんなところで何してるんだ」私たちも笑いながら上着を作る一件について彼に話した。彼はパッと顔を輝かせて自分も欲しいと言った。けれど死体を拭き終わるまでは一緒に行けないということだった。

どうしてこの仕事を与えられたのかと尋ねられて，彼はダクトへ死傷者を探しに行く手伝いをしていた時の様子を話してくれた。何人もの死傷者を見つけて第71避難病院へ連れて行き，救急部屋に横たわる彼らの痛々しい姿を見ていて，自分が死体を安置所に運んで行って，国へ送る用意をしたいと申し出たことなどについて話した。軍曹長は，自分の隊がその朝早くプレイク市に向かって出発してしまっていたのでトレ

ーシーの助けに感謝したのだった。

私たちにはトレーシーが助けたいと思ったその気持がよくわかった。そこで3人一緒にベトナム軍援助司令部へ行けるよう，残った4体の死体を手伝うことにした。

ドンと私は消毒液と布を取り，すぐそばにあった死体を拭きながらそこに横たわっている死体がどのような殺され方をしたのか，また戦争というものについて話し合った。

まず軍服を脱がせると薄い緑色の消毒液で体をごしごしこすり，次にきれいな水で洗って拭いた。3人で話しながら仕事をしたせいかそれ程時間もかからずに死体を拭く作業は終わった。

それからトレーシーは長くて重い黒色の死体袋を出して来た。私たちはその袋を死体の横に置いて行き，遺留品と共に死体を袋に入れた。軍曹が死体を調べ，書類を作ってからそれぞれの袋をしめるため，長いチャックはしめないでおくことになっていた。

そろそろ終わる頃になって，私とトレーシーはテーブルと床を掃除し，ドンは最後のチェックをしていた。

帰ろうとしていた私たちにドンが尋ねた。「おいポコ，人が死んでも人体組織のある部分は生きているっていうのは本当かい？」

私は彼の方を見ながら答えた。「そうだなあ，髪の毛は2時間ぐらいの間なら伸びるって聞いたことはあるけど，それも目立つ程ではないらしいよ。脳は心臓が止まってから2，3分働いているそうだ。しかしそれぐらいのものだと思うよ。でもなぜだい？」

「じゃ，涙腺はどうだろう？死んだ後でも働いているのかな。」

「そんなことは聞いたことがないけど，まあそういうこともありうるだろうね。だけどなんでそんなことを聞くんだい？」

「ぼくはこの死体の目にすすぎ水が残っていたんだろうと思って今2回も拭いたんだけど，また目のふちに水がたまっているんだ。泣いているんじゃないだろうか」

トレーシーと私は立ち上がるとその死体に近寄った。18歳ぐらいの少年のりゅう散弾に傷つけられた顔をのぞき込むと，涙が1滴目のふちににじみ，それから流れて耳に入った。

「この人はまだ生きてるぞ。」私が小さな声でそう言うと，私たち3人はす早く次の動作に移っていた。まるで何百回となくこういう状況を経験しているかのようだった。ドンが救急車の鍵をつかみ，安置所のドアを開けてくれたので，トレーシーと私で少年を外に運んで担架に乗せた。サイレンの鳴り響く救急車を，ドンは第71避難病院へ向けて走らせた。

救急車に揺られながら，トレーシーはまた少年の目から涙を拭いてやった。私が少年を祝福しようと思い，名前を知ろうとして認識票に目をやったその時，認識票の下に末日聖徒を表わすＬＤＳという小さな文字が目に入った。私は彼の頭に両手を置きほとんど聞き取れないぐらいの声で祈った「聖なるメルケゼデク神権の権能とイエス・キリストの権能により，汝の生命を回復する適切なる処置がとられるまで，我は汝が生きながらえるよう命ず」

トレーシーは私の方を見つめながら自分の目から流れる涙をぬぐった。そして感謝の気持をこめたほほえみを見せ，頭を下げて静かに祈った。

サイレンが鳴りやみ，私たちはアスファルトの道路をすべるように走りながら第71避難病院の開いているドアに向かって行った。軍医は救急車から兵士をおろすのを手伝い，それから救急用の病室へ彼を運んで行った。2人の医師からいろいろ質問されて，私たちも知っている限りのことを答えた。彼らが何も言わずに非常口を通って奥へ姿を消した後，私たちは2時間以上も外の木製の長椅子に腰かけていた。

私たちが上着を買いに行こうかと話しているところへ医者の1人が姿を見せ，私たちの方へやって来た。私たちは皆立ち上がった。

「君たち待っていてくれたんだね。どうもありがとう。奇跡が起こったことを話してあげようと思ってね。あの少年はあらゆる医学の標準から考えて死んでいたと言える。9ケ所もケガをしていたし，出血多量でもう血も出ない程だったのだ。心臓がひどく弱っていて鼓動も聞こえなければ，脈もわからなかった。相当衰弱していたから呼吸も気がつかなかった程だ。法的に言ったら彼は死亡していたのだ。しかし，現実に彼は生きながらえているんだからね。

そして動いたり，反応を示すこともできないままに安置所の冷たいテーブルの上に横たわって泣いていたのだ。君たちが涙に気がついたとは彼は本当に幸運だった。さもなければ，すぐに死んでいただろうからね。実際のところ，君たちが彼を連れて来た後でさえも，死んだ状態だったと思う。1,400ccの血液を輸血して，さらにやれるだけの傷の手当をしてもまだ回復する力がなかった。でも，彼は回復したのだ。」

そこまで言うと少し間を置き，それから彼は私たちの方をまっすぐに見つめながら言った。「私は8年間医者をやってきて，この15カ月というものベトナムで治療を続けて来たが，こんな奇跡は目にしたことがない。」彼は地面を見つめながら言葉を続けた。「ねえ君たち，あの若い兵隊がさっき少しの間私の方を見上げてね。そして弱々しそうにほほえみを見せながらこう言ったんだ。『神権』とね。彼は何を言いたかったんだろうかね。」医者は私たちから返事を待たずにゆっくりと背を向け，それから病院のドアを通り抜けて戻って行った。

今私はこうして日を浴びながら，いつかあの医者のところへ行って説明をする時があるだろうと思っている。しかし今はただ身体を休め，現代に起こった奇跡を目のあたりにした喜びを味わっていたい。

注：ロジャーは現在コロラド大学医学センターの病院管理を学ぶかたわら，早朝のセミナリーを教え，リトルトン第2ワード部に所属している。彼と後に妻となったバーバラは1961年故郷のアイオワ州オタッムワにおいて教会に入った。

死体安置所で兵隊たちが仕事に対して何事もないようにふるまう様子が気になるようであれば，ロジャーが編集者に語った次のことばを心に留めていただきたい。「知人が倒れ，友人がすぐ横で殺されるのを経験したら，あなたも死に対して感覚がマヒするようになるでしょう。そうならざるをえないのです。もしそうでなければ，どうしようもなくなって神経がまいってしまいます。

リチャード・L・エバンズ

集団の中に

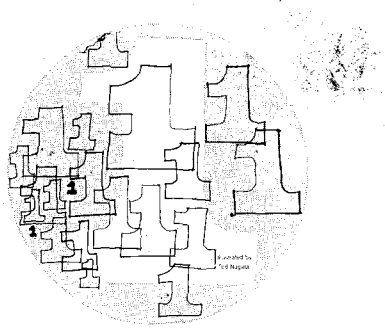
ヘンリー・バン・ダイクは[1]「生活教育」[2]の中で次のような見解を述べている。「人は集団の中で生きなければならない。しかし集団のように生きてはならない……」

これは子供を教育するために最も大切な教訓の1つであり，我々も学ばねばならぬものである。人は個人として生きようと欲する――一個の人間として自らの好むように生きることを――少なくとも人はそう言う。しかし人は必ずしもそうはしない――集団に従わせようとする力が働くからであろう。その証拠に，流行を追うように強制されることを考えてみなさい。しかし，集団に従うかあるいは一個の人間として独立して生きるかについて，我々は厳密に同じ模範に従う必要はない。良い模範と同様に悪い模範もあり，それを識別しなければならない。だがある恐ろしいものがある。それは群集心理と呼ばれ，人は衝動にかられて動き，必ずしも物事を考え抜こうとしないことである。そして我々が最も厳に戒めなければならないことは，悪でも多くの者がそれを行なえば正になるということである。つまり，集団として行なうことによって悪は正当化されるのである。しかし自らの意志によらずとも，その集団の中のだれひとりとして共に悪を行なった個人的責任は回避し得ない。なぜなら集団は個人により構成され，集団の行為は根本的には個人の行為なのであるから。少年少女は（おとなも同様），集団の中や仲間と共にあって行なうべきでないことを行なおうとする時に，取るべきでないものを取ろうとする時に，用いるべきでないものを用いようとする時に，そして振舞うべきでない振舞いをする時に，次のことを自分自身に正直に問うてみるべきである。

「もしひとりでいて人々の強制を受けずに，自分自身の考えを働かせ，起こる結果を考慮に入れるとしたら，私はこれを行なうだろうか」。我々はひとりであろうと集団の中にいようと，すべて自分自身の経歴，自分自身の思い出としてその行為を身に受け，自分自身で責任をもつのである。アブラハム・リンカーンはこのことについてこう言っている。「正義に味方する者につけ，だが悪に傾き始めたらその者と離れよ」「人は集団の中で生きなければならない。しかし集団のように生きてはならない……」

1．1854年10月16日，イリノイ州ピオーリアでの演説。
2．The School of Life

一度に多くの日々を



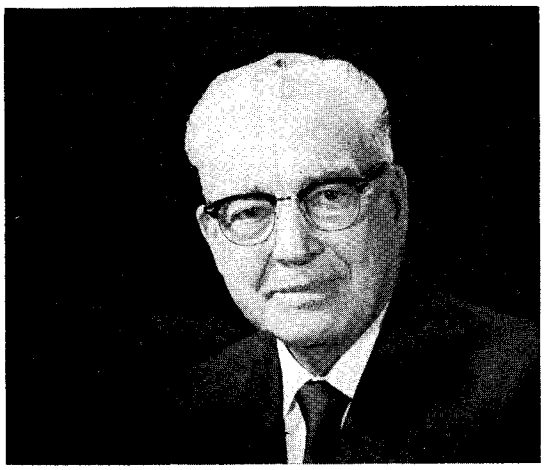
私は親しい友[1]が，愛する者を失い悲しみにくれている人へこう言うのを聞いた。「一度に多くの日々を生きようとするものではない」この忠告はほかの状況にも見事に応用できる。「一度に多くの日々を生きようとするものではない。」我々はあまりに多くのことを一度にやろうとして，またあまりに多くのことを一度に決定しようとして失敗することがある。そのような時，前進はせき止められた川の水のように止まり，それはまるで多くの人々が同じ戸口へ殺倒した時のようである。悲しみの打撃の覚めやらぬ人にとって先を見通した決定を下すことは困難である。

ひどい重荷を負い苦しんでいる者は，あまりにも多くのことを一度にやりすぎて失敗する。我々には，冷静な判断力に欠け，別の方に目を向けなければならない時がある。また，我々には人間の力以上のよりどころとなるものに頼らねばならぬ時，すなわち熱心な祈りの中で自らの力を超越した者からの安らぎと見守りとを求めて，請い願う時がある。急を要する複雑な問題，事故，病気，悲しみ，また愛する者の死に直面している人たち，家庭と仕事，興味と義務を切り離して考えることを抑えようとする人生の軋轢に悩み苦しんでいる人たちよ，ちょっと立ち止まり，祈りを通して主に頼りなさい――時間をかけて事態を考え抜くが良い。何が最も大切かを捜し求めよ。そして一度にすべての重荷を背負おうとしたり，苦悶の最中に，あらゆる将来の決定をしたりするものではない。

時というものは我々に多くを与える。時は我々の心をいやし，悲しみを和らげてくれる。たとえ愛する者が我々をおいて去った時でも，人生は続き，ともかくも耐え得る役に立つものとなるのである。

人々は順応している――かつて何百万という人がそうしてきたようにこれからもそうするだろう。最も良くない問題の解決法は，一度に力まかせにやることである。我々はそうしなければならなくなる時まで，何ができるのか，何に耐え得るのかを知らない。しかし，我々が常に考えているよりもはるかに多くのことができるだろう――そして平和とやすらぎと和解がおとずれる。もう一度私の賢明な愛する友からのふさわしい忠告を繰り返そう。「一度に多くの日々を生きようとするものではない」

1．ハロルド・B・リー副管長



若人を備える

末日聖徒イエス・キリスト教会
第一副管長
ハロルド・B・リー

今日世界中にあるこの教会のどこを訪れても，末日聖徒の若人の将来に対して深い関心が寄せられていることに気づくであろう。教会の将来が我々の若人にかかっていることから，この関心も無理からぬと言える。やがて家族を，そして定員会，ステーキ部，ワード部，補助組織を管理するのは彼らなのだから。

確かに，彼ら若人を備えるうえで私たちが現在していること，あるいはしていないことが，若人の教会を導く力，家族や福音，同胞である教会員を愛する心に影響を与えるのである。

使徒パウロがテモテにあてた書簡の中に，老いも若きも心して聞くべき時宜を得た勧告がある。「あなたは，年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ，言葉にも，行状にも，愛にも，精神にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」（欽定訳Ⅰテモテ4：12）

私たちは教会の若人を愛し，そして言う。パウロが若きテモテに言ったように，信者の模範となるならば最も幸福な者になるであろうと。教会の将来は守られている。そしてさらに，若人が言葉にも行状にも信ずる者にのみ見られるキリストの純粋な愛と純潔を示すならば，さらに栄光に満ちた将来となるであろう。

教会にとって若人がそんなにも大切なのかと疑問を抱く人は，教会歴史事務局で用意した膨大な統計による次の資料に注目していただきたい。

教会員の50パーセントを下らない数を25歳以下の年令層が占めている。また12歳から24歳までの年令層が30歳以上に劣らぬ数を有している。もし16歳から25歳までの年令を調べるならこの年令層が全教会員数の23パーセントは下らないであろう。そしてこの年代は恐らく最も刺激が多く，最も重大な決定をする時期であると思われる。

統計を見ただけで，私たちのかかえているチャレンジがいかに大きいかがうかがえるに違いない。それは，この膨大な数に及ぶ若人がやがて困難な時代に王国のために働き，王国を導くからである。私たちは若人を備えるために，現在以上により良い働きをしなければならない。

今や家庭と家族が教会の将来を決める鍵であることが一層明白になってきている。愛を受けていない子供，規律や仕事，責任を知らないで育った子供は行動あるいは知的な面を問わずに，サタンが幸福と称している麻薬や性行為にふけり，暴動を起こすこととなる。また私たちは家庭の夕べに非常に力を入れているが，私たちがこの機会を利用しさえすればその努力によって大きな祝福が約束されている。この家庭の夕べについて教会では単にすすめるだけに留まらず，さらに援助を惜しまないつもりである。

結婚，愛，そして性について教え学ぶ最適の場は家庭をおいて他にはない。これらはみな神聖な神殿結婚に結びつくことだからである。現代の若人たちの疑問に答えられる場は愛のある所，すなわち家庭

以外にはない。愛は若人の心を和らげ，信頼に足ると思われる人の言葉に耳を傾けさせる。教会でのレッスンやクラス，定員会は家庭を補うものであり，もし重大な欠陥がある家庭が存在するとすれば，私たちは全力を尽くして完全なものとしなければならない。

イエスが第1と第2の偉大な戒めについて「これらの二つのいましめに，律法全体と予言者とが，かかっている」（マタイ22：40）と言われたのは，歴史の過程における最もすばらしい洞察力を示したものである。なぜならその2つの戒めの上に私たちの教えを築き，その光によって組織を導き，プログラムの相互関係を育てていくからである。

愛を知らない子供が隣人を愛するようになるだろうか。信頼を受けたことのない若人が信頼を理解できるだろうか。仕事や責任について全然知らない少年が，社会を動かしていくうえでそれらの特性がいかに必要か果たして理解できるだろうか。家庭で福音の原則について遠慮なく話し合える場を持たなかった少女が，自分の宗教について世間から批判を受けたり，議論をいどまれた場合にそれを切り抜けることができるだろうか。父親がタバコをすうために（推せん状を持っていても）自分の神殿結婚には立ち会わないでくれと言わなければならない場合に，もし家族のごきげんを取るためにその不祥時に目をつむる監督がいたとしたら，その息子は監督に全幅の信頼をおけるだろうか。福音の原則を，実践によって経験しないで信じようとしてもそれは無理である。

若者たちがある場合に大人の偽善をするどく突くのは，私たちのあら探しをしたいばかりからではなく，深い失望感によることも忘れてはならない。彼らは私たちが外見と内容を一致させることを心から望んでいる。それは若人にとって私たちが真に信じる者であるという証になるからである。

また私たちはもっと進んで若人に適切な責任を与える必要がある。私たちの管理者であるジョセフ・フィールディング・スミス大管長は若き時より責任を知っておられた。そして父君のジョセフ・F・スミス大管長もそうであった。

神は幾度となく御自身が選びたもうた若人たちに特別な召しを与えておられる。若人に見られる倦怠感や落着きのない態度は，完全に責任をまかされたり，働く機会が与えられる前に長い期間勉強し，親の保護下にいなければならないことから生じている例が多い。若人は何かをし，達成したいと思っている。それには準備が必要なことはもちろんだが，もし若人の希望を考慮し，教会のプログラムで働く場を作ってあげるなら，彼らが成長して一人前になった時に多くのことをなし遂げるに違いない。

ノアの時代と変わらないと言われているこの時代にあって，私たちは若人が正しい選択の方法を学び正しい意味の自尊心を備えた人に成長するよう助けなければならない。その時にこそ彼らは家庭の影響を直接受け，家族の愛によって悔改めを大切なこととして実践できるのである。家庭および教会外において若人を取りまいている環境は，価値感から言えばむなしいことが多く，また福音の原則に矛盾する考え方が多くある。

私は，現在においてもまた過去においても教会には選ぶ権利は与えられていないと思う。しかし，家庭にその神聖な使命を遂行するよう援助を与え，また末日聖徒の家庭生活を向上させるうえでさらに何かをなす権利は持っている。それは天の秩序であり若人のためになる最も実践的な働きかけだからである。多くのプログラムや組織を通じての働きと同じようにこれら教会からの働きかけも大切ではあるが家庭に取って代わるようであってはならない。家庭を助けるべきである。

世間で見かけるある人々とは異なり，私たちは若人の真似をしたり，気に入られたいばかりに自分本来の姿や個性を譲歩してまでも彼らをおだて上げるようなことはしたくないと思っている。同様に，1部の青年男女の行動を理由にすべての若人を見放す人々のようでもありたくない。すべてにおいて，主の教えを導きとしなければならない。私たちは何事もうのみにするのではなく，賢明でなければならない。私たちを非難し，虐待する人をも愛する必要がある。原則を曲げることなく，しかも愛するにさとく，許すにさとくなければならない。自分が救い主とその王国に誓った約束を若人を含めた他の人々に教えるよう，常に備えをしていなければならないのである。

願わくば私たちが若人のために働き，愛し，導き今日および将来に向かって彼らを備えることができるように。

Merrill Gogan

天からの贈り物

ジョージ・デュラント

「心から愛するマージョリー，キャメロン，ヒーザー，ウォレン，ホーリー，ハイディ，私は何よりもまずおまえたちと一緒に永遠の生命を得たいと思っている。大学，伝道，神殿結婚，これらはみな大切なことだ。計画を進め，目標を立て，自分の記録を書いて年に２度写真を取るようにしなさい。」

これは本当に短い手紙ですが，父親から家族へあてたすばらしい証です。手紙を受け取った家族は喜びのあまり，その簡潔な文に含まれている大切な内容をほとんど心にとめられないほどでした。その１つ１つの言葉は宝物のようでした。彼らは２年半もの間待ち望んでやっと手紙の主がまだ生きているということを知ったのです。

合衆国の空軍パイロットである父親は，戦闘の際，敵の砲火によって撃墜されたのでした。彼が捕虜収容所にいる２年半もの間消息が途絶えていたのです。その最初の手紙が来てから５か月後に２通目の手紙がきました。その手紙の中で父親は再び最も心にかけていることを家族に語りました。「心から愛する家族へ。私の方は元気でやっている。家庭の夕べや，食料貯蔵計画，読書計画，そして朝食時に歌や聖句を家族で共に読むことをきちんと続けてやっているだろうね。マージ，大学のクラスは楽しいかね。児童文学，芸術，音楽鑑賞，家計，個人財政学をよく勉強するように。ジェイ」

父親が家族に連絡する内容は限られ，必要なことしか書くことを許されなかったのです。彼は手紙の中で家族に続けて家庭の夕べを行なうように言いました。彼は明らかに成長期にある子供たちを助ける何かがそこにあるのを知っていました。大人になったばかりのあなたの息子のことを心に描いてみて下さい。責任感が強く隣人に奉仕したいと望む人，徳を愛し回復された福音の神聖さに対して確固たる証を持った愛し愛される人，あなたはそのような息子，娘を育てたいとは思いませんか。あなたはそのために喜んで耐え，最大の努力をはらおうとするでしょうか。もしあなたがそういう子供を望んでいるなら時間はそう多くはありません。赤ちゃんから大人になるまでの時期，それは束の間です。子供のそばにいて教えるという機会を無視すれば，やがて取り返しのつかない損失を招くことになるのです。

子供たちの将来に夢を抱く両親にとって，主の家庭の夕べのプログラムは天からの贈り物のように思えることでしょう。それは我々がしなければならないという義務からではなく，やらずにはいられないものなのです。たいていどの親も，自分の子供に対しては同じような望みを抱いているものです。ではなぜ家庭の夕べを実行する親とそうしない親がいるのでしょうか。家庭の夕べはただでさえ苦労の多い生活にさらに重荷を負わせることになると考えている

〔著者説明〕デュラント兄弟は現在神権ホーム・ティーチングと家庭の夕べ委員会の幹部書記であり，以前に南北アメリカおよびポリネシア島のレーマン人のための教科課程の指導者であった。ソルトレーク市のウイルフォードステーキ部，インペリアル第二ワード部でエクスプローラー指導者として働いている。

人がいるのでしょうか。あるいは父親が子供を教えるのに知的にあるいは霊的に備えができていないと感じているからでしょうか。すでに試みた両親が，子供たちのやかましいほどの反抗にがっかりしたのでしょうか。そのような親たちに，私たちははっきりと，家庭の夕べは負担になるものではないということを，また父親だけが教師になる必要もなく，子供たちも反抗する理由がないと言えます。あなたにとって家庭の夕べは他の数ある負担の中の１つになっていますか。もしそうなら，あなたの人生の真の目標をもう一度考えてごらんなさい。あまり重要でないと思われるものはあとまわしにすることができるはずです。父であり母であるということは，最も完全な意味で「教会の仕事」であるということを心にとめて下さい。また重荷というものは分かちあうことによって軽くなるのです。父親の指示と家族全員の助けがあって，家庭の夕べの負担は少なくなり祝福が増し加えられます。

ある父親はこう話しました。「私はちゅうちょせずに家族みんなに助けを求めることにしています。ある晩，私たちが家庭の夕べのために何も用意をしていなかった時，私は私と２人の上の子供たちが家庭の夕べのテキストを読んでいる間に，お母さんと別の２人の子供にホットケーキをつくるように提案しました。準備をすることは，そのまま家庭の夕べを実践することにつながります。もしそこで使う図を書いたり，絵に色を塗ったり，演劇をしたりする必要があれば，私たちは家族みんなで準備をするようにしています。

お母さんと子供たちはホットケーキを作りながら歌の練習をしていました。私たち３人はその晩の話題を選びました。また私たちは３人でテキストを数分間読みました。リッチは物語を話すと言い，ジュリーは聖句を読んで説明すると言いました。私は，そこで話し合われる原則に従うことによって得られる幸福について証を述べることにしました。

家族の一致が見られたことは何とすばらしいことだったでしょう。私たちは楽しい霊的な家庭の夕べを持ちました。たとえそれが，負担であったとしても，その日の夕べは私にはそうは思えませんでした。」

子供たちのふるまいは，時々両親を不機嫌にし，家庭の夕べを不愉快なものにします。ある父親はこう言っています。「家庭の夕べを１度開いた後で，私は自分自身のことを反省してみました。問題は家族ではなく自分であることに気づきました。私は家庭の夕べで２度と怒るまいと決心しました。もし何か私を怒らせるようなことが起これば，私は『ちょっとタイム』と言って水を飲みに行きます。たしかに水はたくさん飲みましたが，約束は変えませんでした。」

気楽な気持で開くことを忘れないで下さい。家庭の夕べは形式的なクラスではありません。家族が共に夕べを過ごす時なのです。子供たちは順番にすわる必要はないのです。彼らが床に寝そべったり他に居心地のよいところにすわったとして，何か問題があるでしょうか。彼らはそのようにして耳を傾けることができるのです。お父さんがやさしくお母さんに腕をまわすのはよいことです。それはお父さんがお母さんを愛しているということを教えることになります。もし子供たちがそのことを知れば彼らは永遠に大切にするものをそこから学ぶでしょう。砂糖菓子があれば，家族が話している間，よく耳を傾けて静かな雰囲気がかもしだされるでしょう。子供が面白くなさそうにしていたら歌を歌わせたり，ダンスをさせたり，家族みんなでゲームをやるのもいいでしょう。あなたが10代の息子や娘に話している間，小さい子供がおもちゃの車で遊びたがったら，そのまま遊ばせておきなさい。

幅広い年令層にわたっている家族に，みんなが同じ年令の学校のクラスのような行動を期待することはできません。「みんな，楽しかったかい？」と尋ねることは家庭の夕べの価値を決める一つの鍵となります。くつろいだ雰囲気の家庭の夕べを進めている両親は，子供たちがそれを心から楽しんでいることを知っています。彼らはまた，くつろいだ雰囲気の中に福音を心から心へ伝えることのできる最上のものがあることを見出します。そのような家庭の父親には教えることについての不安がなくなり，レッスンは講義形式から話し合いへと変わってきます。

ある父親は，11歳の娘に目をやって，予定のレッスンとは違ったレッスンをした経験を語っています。

その父親は，心から娘にこう言いました。「キャサリン，お前は本当にきれいだよ。いつか成長して大人になった時，お前は１人の若者に出会い彼はお前を好きになり，お前も彼を好きになるだろう。お前は彼を好きだということを私に告げるだろうが，その時私は彼と戦ってでもお前を手離したくはないと言うだろう。しかし，彼と会ってみてからは，私もだんだん彼が好きになり，しばらくして彼がお前

を愛してお前も彼を愛しているのを知るようになるだろう。それからある日，私たちはみな朝早く起きて神殿に行く。お前たちはそこで永遠の結婚をするのだ。キャサリン，お父さんとお母さんがしたとまったく同じように，お前たちも結婚できるなんて何とすばらしいことだろう。神殿は結婚するための場所なのだ。」

愛と尊敬の気持の中でなされたそのような話は講義ではなく，父親が尊重しているものを子供たちの心に植えつける最も良い例です。そこには少しの強制もないのです。神聖な霊感された信仰として私たちが心に抱いているものは，強制によっては決して子供たちの心に伝わらないのです。その思いは最もふさわしい時に，心から心へと伝えられるのです。全員が自由に話せてすべての意見が尊重される家庭の夕べでは，子供たちは一人前に取扱われていると感じ，彼らの答えは彼らの思いを表わし，奮い立たせるものとなるのです。日常の問題点を突く話し合いになると，十代の子供たちは大きな興味を示します。

両親はよりよい聞き手となる秘訣を学ぶことによって，よりよく教えるこつがわかるものです。1人の十代の若者が家庭の夕べで心の中に思っていることを話すようにと言われた時，こう言いました。「ぼくの大きな悩みは，食事の時，にんじんが多いことです。」

母親がすぐに答えました。「にんじんはからだにいいのよ。もう食事についての不満は聞きたくないわ。」その少年はその時からにんじんや他のことについても一切話をしなくなりました。彼にとって，その日の家庭の夕べは楽しいというよりむしろ苦痛でした。もしも母親が「あなたっていう子は本当ににんじんがきらいなのね」と答えてさえいたなら（そうするには忍耐を要しますが）少年はもっとたくさんのことを言ったかもしれませんし，その全部が全部批判的なことばかりではなかったかもしれません。私たちはお互いがどのように感じているかを話し，気持をわかってもらおうとする時に心を変えるようになるのです。ここでもまた私たちは強制ではなく，愛と尊敬をもって教える必要がでてくるのです。

それは単に子供たちが強制的にではなく自ら進んでしようとするために，両親と対等の立場で問題を話し合い解決できるということを意味しているにすぎません。

ある父親は，子供たちをよく観察した結果，彼らのなすことがみな悪いことばかりで，良い行ないはせいぜい19位だったと言い，こう語っています。

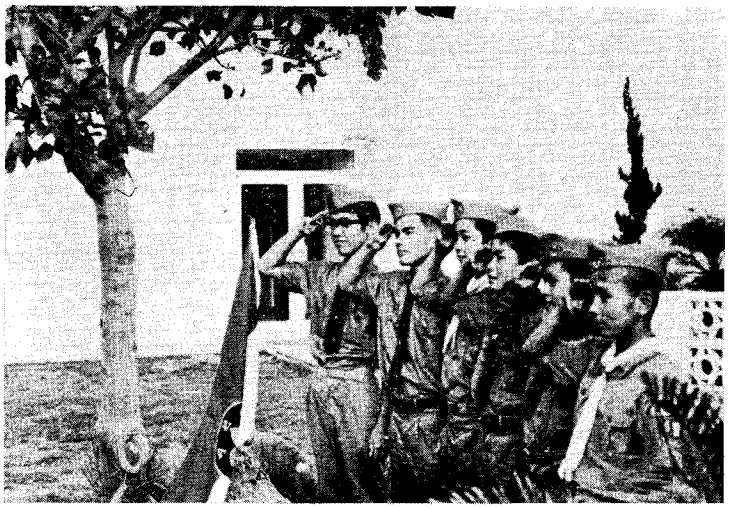
「だから，私は彼らの誤ちについてはあまり話しません。私は家庭の夕べの時間を彼らを責めるよりはむしろほめるために使います。私は彼らの悪い行ないよりも良い行ないについて話したいと思っています。」

家庭の夕べは愛を述べる時間です。1人の少年が言っています。「お母さんについて知っている限りの良いことを言うとすれば，一晩中かかるでしょう。」父親も感激し，つけ加えて言いました。「お父さんも同感だよ。私はお母さんを心から愛している。」その子供の母親は喜びで胸が一杯になりました。

その父親はさらにつけ加えてこう言っています。「その次の週，私たちは最高の夕食をいただきました。」

家庭の夕べは子供たちに学校のことを話させる良い時間です。小さな子供にとって，家族に「国語の教科書」の第一課を読むのを聞いてもらえることはどんなにうれしいことでしょうか。その子供は学校で得たばかりの知識を示すことができ，同時に学校の勉強の大切さを考えることでしょう。そのような経験をもつ子供たちは学校でベストを尽くすようになるのです。あなたは家庭の夕べを「開かなければならない」と思う必要はありません。自ら開きたいと思うようになるのです。言い方こそ違いますが数年にわたって，あなたは子供たちに次のように言ってきたはずです。「この教会は真実だ。父親，母親として私たちはお前たち1人1人を愛しており，またお前たちの両親であることを誇りに思っている。我が家は世界中で一番すばらしい家族だ。私たちは永遠に一緒にいることができる。ジョセフ・スミスが聖なる森で天父と御子に会ったことを忘れないようにして欲しい。イエス・キリストは生きておられ，私たちの救い主である。また，この教会は主の教会である。主の選ばれた指導者に従って行きなさい。そうすればお前たちは決して迷うことはないだろう。」予言者たちは「そのような家庭に育つ子供たちは決して堕落することはない」と言っています。あなたがたが家庭の夕べを持ち，家庭の中で続けてその精神を分かち合うならば，責任感が強く奉仕することの好きな，また徳を愛し，強い証を持つ愛し愛される息子，娘たちを持つことができるのです。

那覇支部ボーイスカウト活動



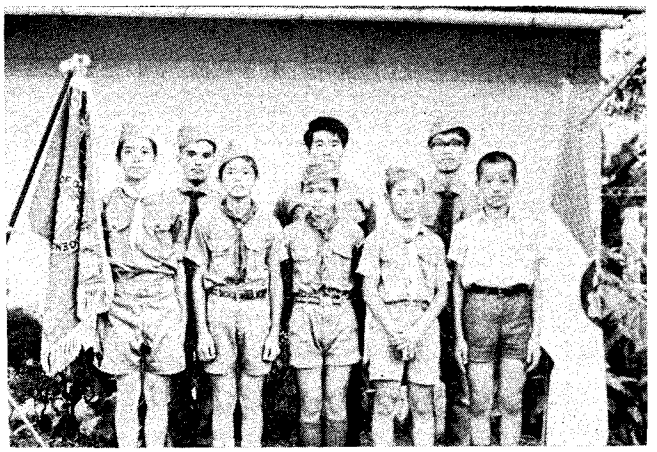
那覇支部の青少年アロン神権者活動は実質的にはボーイスカウトを中心に行なっています。それ程若い兄弟達の興味と関心を集めているのがボーイスカウトです。

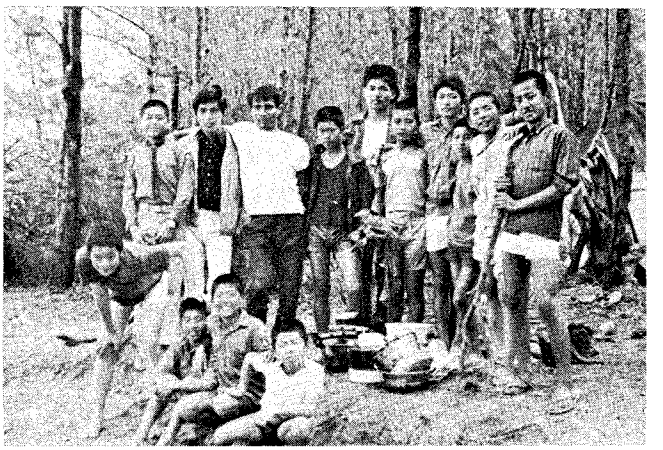
ボーイスカウト精神の中心になっているおきて，ちかい，モットー，スローガンは全て教会で教えられている福音の根本原則でしかも楽しい屋外活動を通して自然に学ぶことができるので，若い兄弟達の進歩にとってこれほど理想的なプログラムは他にないでしょう。私たちの教会が以前よりこのプログラムを教会でとり入れ，しかも活発に行なっている理由が次第にわかってまいりました。ボーイスカウトを結成してまだ2年になりませんが，最近では会員以外の少年達も加わり，ただ単に隊活動ばかりでなく，一緒に他の礼拝行事にも参加するようになりました。支部にスカウト経験者がおらず結成当時はほとんど手さぐりの状態で活動を行なっておりましたがこの度，隊員の中から6名が二級スカウトに昇進できました。これからまだまだですが一日も早くイーグル賞の名誉に輝く隊員を出すよう頑張りたいと思います。

隊長　宮良　毅
副隊長　武富良行

私達はキャンプをするごとにこまかく計画を立てて，準備をして出かけるのですが，いざとなるとかならず必要で大切な道具や品物を忘れていたり，計画を充分消化できなかったりで，同じ様な問題に悩まされます。私はボーイスカウトのキャンピングを通して，教会のプログラムにおいて，また，自分の人生において綿密で関心深い計画を立てることがいかに大切であるかを学ぶことができました

上級班長　相羽政三（教師）





伝道部長の交代

1971年6月30日，日本中央伝道部に新しい歴史の1ページが加えられました。

3年間，一生懸命働かれた岡崎部長に代わって，清水勝伝道部長夫妻が3人のお子様をつれて，この日に大阪空港に元気におつきになりました。

1959年12月より，1963年1月迄3年間，日本各地で宣教師として働かれた経験があり，姉妹も同様宣教師の経験がありますので，この大任を立派に果たされるものと確信しております。

岡崎伝道部長ご夫妻は，6月には，念願としていた"One for One"，つまり1か月に1人の宣教師が1人を改宗する立派な成績を残して7月2日午後9時30分の日航機で，帰国の途につかれました。

およそ150人の会員達が，清水部長ご夫妻と共に，盛大な見送りをしました。ちなみに，6月中に141名の宣教師で147名の改宗者を得ました。会員達の尚一層のフェローシップをお願いいたします。

東京ステーキ部

夏の終わりに

夏休みも終わりに近い８月の下旬，東京ステーキ部の青少年たちによって東京ステーキ部の歴史に新たな一頁が加えられるであろう一つの行事が行なわれる。

＊　＊　＊

横浜の三ツ沢にある青少年の家，そこに集まるのは14才から20才までの将来教会の指導者として活躍するであろう若い男性と若い女性たちである。

＊　＊　＊

８月26日，木曜日。東京ステーキ部内の各地から若い兄弟姉妹が横浜ワード部にぞくぞくとつめかけてくる。朝の８時30分である。歓迎を担当するワード部の兄弟姉妹は一人一人名簿と照し合わせ受付ける。９時30分，礼拝堂で開会式が行なわれる。ステーキ部役員の管理のもとにこの大会のオリエンテーションが30分行なわれる。それに聞き入る参加者は約100名。

それが終わると第１日目のプログラムが開始される。セミナーである。セミナーの担当ワード部の青少年たちは，各ワード部のやはり参加者の青少年たちから希望をとったセミナーをアレンジしたのである。

教会の歴史，英会話，食事マナーを含むエチケット，デートの仕方，ダンスなど，教育的で楽しい内容が，午前午後の２部に分かれて開かれる。

そして夜は三ツ沢の青少年の家に移り，フォーク・フェスティバルがくり広げられる。フォークグループの歌，演奏，ダンス，そしてキャンプファイアと，自分たちで計画し，自分たちで参加する。

翌日は１日スポーツが行なわれる。そして夜はディナーパーティ，どんな珍味が飛び出すだろうか。

８月28日土曜日，９時から神権会と若い女性の会を１時間開いた後，証会をして，３日間のコースが閉幕するのである。

＊　＊　＊

これがユース・コンファレンスである。

＊　＊　＊

東京ステーキ部青少年アロン神権委員会では，完全にユースを対象とし，またユースが計画した，「ユース・コンファレンス」を昨年から調査研究してきました。

そしてユース・コンファレンスとは「通常年１回，青少年が共に集まり，フェローシップをなし，信仰を強め，証をうちたて，才能を伸ばし，指導性を養い新しい友だちをつくること等の目的で行なわれ，素晴らしい社会的経験をもたらします。計画，準備，参加は，神権者の指導と補助組織指導者の援助を得て，**青少年が行ないます**。」（1970年「ユース・コンファレンス」）この理念をもとに手引に準じた組織を編成しました。すなわち以下のような組織です。

青少年の各委員会は本年２月より毎月１回，第１金曜日午後６時30分から７時30分の１時間集会を開き準備を進めてきました。ユース・コンファレンスのような大きな行事に毎月１回１時間だけの集会では少なすぎる感じもすると思いますが，彼らの仕事は集会の１時間ではなく，集会から次の集会までの１ケ月間が責任を行なう場です。毎月の１時間とは進行度合のチェックと次第に明確化されていくプログラムの確認だけです。あとは各ワード部内の青少年たち全部が準備に参加するのです。このようにして，自らの手で計画し，自ら参加をする東京ステーキ部ではじめての（もちろん日本ではじめて）ユース・コンファレンスが始まるのです。もしあなたが14才から20才のいずれかであるなら，今すぐに準備の手伝いをして下さい。

ユース・コンファレンス運営委員会

委員長―ステーキ部青少年アロン神権委員会
委員長（第二副ステーキ部長）
委　員―青少年アロン神権委員会の委員
（高等評議員）
ステーキ部ＹＭＭＩＡ会長
ＹＷＭＩＡ会長
各ワード部から二人ずつの青少年委員
（監督の青少年委員会からの代表者）

青少年委員長
（今回は東京ワード部の青少年委員が選ばれました）

青少年副委員長
（東京ワード部姉妹）

実行委員会
受付：第４ワード部
ＰＲ：第５ワード部

プログラム委員会
セミナー：横浜ワード部
フォーク：東京ワード部
フェスティバル：
ディナー：
パーティー：第２ワード部
スポーツ：第３ワード部

＊　＊　＊

ユース・コンファレンス運営委員会名簿

委員長	相良健一	（副ステーキ部長）
委員	高橋　実	（高等評議員）
〃	児玉栄治	（　〃　）
〃	小室　敬	（　〃　）
〃	水野　圭	（　〃　）
〃	佐倉井正彦	（ＭＩＡ会長）
〃	重松紀世子	（　〃　）
青少年委員長	安藤彰彦	（東京ワード部）
副委員長	山口裕子	（　〃　）
委員	仙波健次	（第二ワード部）
〃	田島菊江	（　〃　）
〃	小沼貞次郎	（第三ワード部）
〃	戸田美恵子	（　〃　）
〃	阪本真一	（第四ワード部）
〃	平出恵子	（　〃　）
〃	蛭川幸一	（第五ワード部）
〃	鈴木八重子	（　〃　）
〃	長崎規行	（横浜ワード部）
〃	渡部安子	（　〃　）

日本伝道部

アボ伝道部長を迎えて

親愛なる兄弟姉妹の皆様

20年を経た今，再び伝道者として日本に召されたことは私にとりまして喜ばしいかぎりです。もう一度日本の方々と共に働くために帰って来ることは私の長い間の夢でした。主はいつも私を祝福して下さいます。そして今，私達家族は皆様と共にここで働けますことを誇りに思っています。

日本における教会の非常に大きな成長ぶりを目のあたりにし，とても感銘を受けました。又，賢明な指導者達や組織されたワードを見ることは私にとって大きな喜びです。私はこれらは日本における目ざましい成長のちょうどはじまったばかりのしるしであると信じています。

日曜日に私は，非常に沢山のハワイ神殿訪問に参加しようとしている会員達の面接をいたしました。そして，彼ら聖徒達のすばらしい信仰に非常に感銘を受けました。

私共は来日前にハワイとソルト・レークで多くの方，特に日本の聖徒達の活発な活動に関心をもっておられる方々と話しました。そして，皆様に彼らからのアローハのごあいさつを携えて参りました。

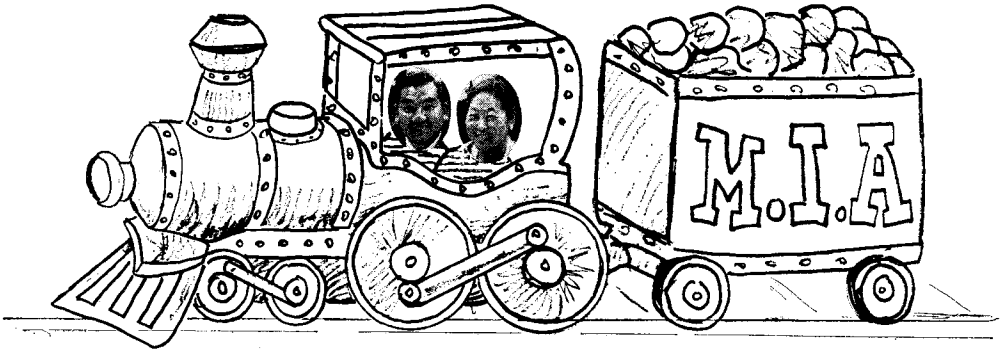
皆様方が信仰を増し加えられ，天父なる神様に仕えたいという望みを続けられますように願ってやみません。そうなさることによって，多くの喜びと幸福が皆様の上にありますことを，私の経験を通して証いたします。

日本伝道部　ユース・コンファレンス

〝開拓者につづこう！〟

——テーマ聖句——

神は曲れる道を歩まず，また右手にも左手にも曲らず，また宣べし事と違うところなし。故に，神の道は直くしてそのふむ道は永遠にかわらぬーすじなり。　教義と聖約　第3章2節



夏が来ると私達は再びユース・コンファレンスの声を聞きます。

今年も若人の祭典であるこの大会の時期が来ました。

若さと才能と証を集めてさらに私達の成長と前進の基としよう。

そして開拓者につづこう！

日時　8月26日(木)—8月29日(日)

場所　東京地区

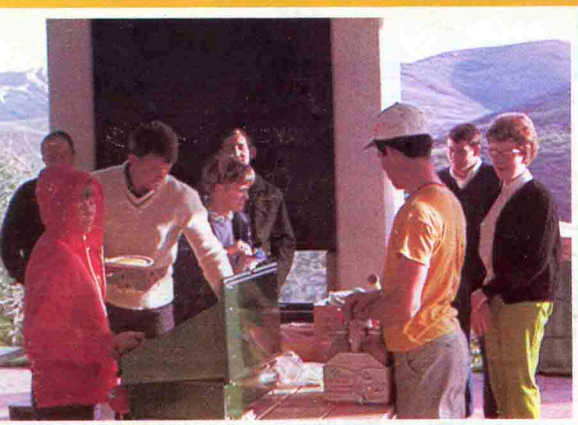
資格・費用　14歳以上，参加費　¥1,500

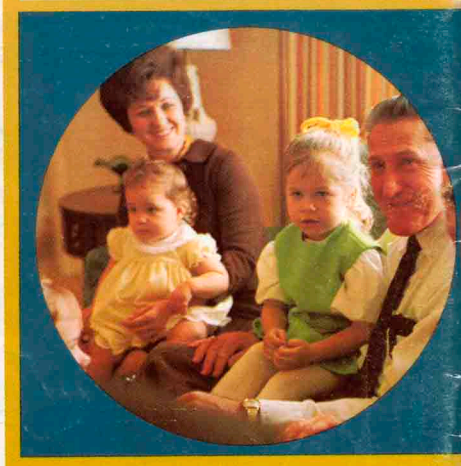
宿泊　ステーキ部会員宅(1泊)
　　東京青年文化会館(2泊)

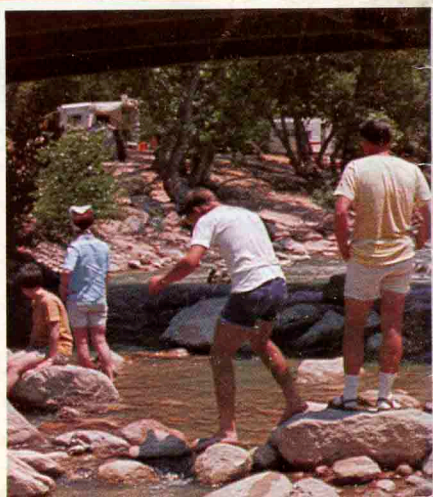
	プログラム	時間	場所	内容
26(木)	チェックイン	1:00—2:30	駒沢体育館	参加者チェック
	歓迎会	3:30—5:00	〃	歓迎パーティ
	開会式	6:00—7:00	〃	全員参加
	家庭の夕べ	8:30—		ステーキ部の兄弟，姉妹宅で
27(金)	指導者会	8:00— 9:00	日本青年館	
	セミナー	9:00—11:00	〃	模疑MIA
	昼食			
	スピーチコンテスト	1:00—2:30	日本青年館	ブロック別コンテスト
	コーラスコンテスト	3:00—4:30	〃	〃
	ドラマ	7:00—8:30	〃	「婚期」前橋支部
28(土)	スポーツプログラム	8:00—3:00	新宿体育館	バレーボールトーナメント
	ダンスパーティ	6:00—9:00		ボールルームダンスパーティ
29(日)	証会	8:00—3:00	東京第3ワード部	断食証会

聖 徒 の 道

昭和42年12月18日第三種郵便物認可
1971年 8 月20日発行（毎月 1 回20日発行）第15巻第 8 号







聖徒の道
1971年 8 月20日発行
発行人兼編集人　ウォルターR. ビルス
発行所　東京都港区南麻布 5 － 8 －10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話 (442)7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　１００円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）